

No.600

広報

# こいのえ



2006

5

<http://www.town.kokonoe.oita.jp/>

# 特集 土からはじまる

春

木々は芽吹きを迎え、色鮮やかな緑がこの町を覆います。

土からも新しい命が生まれる季節です。

九重町は農作物の一大生産地。

新鮮で美しく、土の香りのしつかりする、

おいしいものが日々生まれています。

空気が澄んでいるから、

水がいいから、

昼と夜との寒暖の差が激しいから、

そんな環境の良さだけでなく、

丁寧に作られた農作物を手にとると伝わってくるもの。

作る人の情熱、希望、喜び……

そんなところにも、おいしさの理由はありそうです。

農業は、明るいことばかりではありません。

むしろ、大変なことのほうが多いほど。

出荷価格の低迷、高齢化、後継者不足……課題はたくさんです。

しかし、それを乗り越えようとする強い意思があります。

農業に対する誇りがあります。

作る人の、希望や喜びは、農作物のみずみずしさや甘みに、

作る人の、強い意思や誇りは、農作物の土の香りに、

土からはじまり、土に生きる。

そんな人たちの声を集めました。

# 家族がいたから がんばることができた



時松 龍廣さん 夫婦  
時松 園枝さん



## 5

時くらいに出荷場へいくと、収穫を終えたキャベツを積んだトラックで、あたりは渋滞していました。1日1万ケース、毎日、トラック10台分以上のキャベツが飯田から出荷されています。みんな一丸になって、勢いがありましたね。

時松龍廣さん、園枝さん夫婦（北方）は、あの頃を振り返ります。

飯田高原に高冷地キャベツが本格的に入り始めたのが昭和30年代、高度経済成長に足並みを揃えるように順調な伸びを見せ、ついに昭和50年代前半、全盛期を迎えます。作付面積は150ヘクタールを越え、組合員は1000人を越えまし

た。「飯田の野菜の販売額が5億円を突破したと、みんなで喜び合ったのを今でもよく覚えています」と時松さん。価格が低迷し、出荷してもダンボール代さえ出ないこともありました。しかし、「3年に1回でも当たったときが大きい」。そんな言葉が生産者や関係者の間で交わされていきました。

それから30年余り、飯田高原の野菜の構図は大きく変わりました。一番目を引くのが、キャベツ生産者の激減。直販が増えた影響があるものの、JA経由で市場に出荷しているのはわずか2、3軒。時松さんのところも最盛期で2ヘクタールあったのが120アールまで減少しました。キャベツ以外にネギ、シイタケ、コメ、そして肉用牛に取り組んでいます。龍廣さんはさびしそうな表情で「農業をやってきて、一番悔しいのはキャベツ農家が減ったことです」。

ここ20年、キャベツ農家はネコブ病に苦しめられてきました。重病に関わらず作業を機械化するのも困難。高齢化していく生産者は次々に離れていきます。とどめは価格の低迷。時松さんによると、全盛期の6割、以前であれば、不作などで出荷量が減ればその分価格が高くなったものの、今では足りない分は輸入品で補う図式が出来上がってしまった。価格は低迷したまま。

「今は10キロ平均500円から600円くらい。1000円はない

かないと苦しいです」それでも時松さん夫婦はキャベツを続けるといいます。

「飯田高原農業のイメージの中心は、やはりキャベツになると思います。ただ、それだけでは苦しいのかわりないので、少量多品種に変えていかなければいけない。これからは観光的なものをさらにプラスしていかなければと考えています」

ほ場が、やまなみハイウェイ沿いにあることから、早くより直販所を設けており、「そこでお客様と直接交流できるのがうれしい」と園枝さん。これからはインターネットを使った販売にもチャレンジしてみたいと話します。また、この秋にオープンする鳴子川大吊橋（仮称）が観光と農業が結びつく起爆剤になるのではと期待を掛けています。

時松さんのキャベツの一番おいしい調理法は、と尋ねると、「やっぱり、サラダなどの生で食べる」とおいしいなあ」と夫婦で笑います。アピールがイントは、甘くて、やわらかく、見た目の良いこと。

「そのためには、手をかけることです。堆肥を使った土作りも大事。うれしいのは、やっぱりよく出来たときです。作っていてよかったなあって思います」

時松さん夫婦は、どちらも飯田生まれ。園枝さんは、子どもの頃、両親が夜なべして出荷用の木箱を組み立てていたのを今でも思い出すといいます。そして「あの頃、食べたキャベツの味が忘れられない。とてもおいしかった」とも。数年前、昔の種が見つかったので植えては見たものの、うまくいかず、幻の味のまま。記憶がおいしくさせた部分はあるのかも知れません。しかし、飯田で農業をしてきた人の、熱い思いは、確実に引き継がれています。園枝さんは、実の父親のこんな話をしてくれました。

「お父さんは、農業がダメだというようなことをひと言も言わなかったんですよ。百姓って、百の仕事ができるすごいことなんだよって、小さい頃からいつも聞かされていました。だから農家の人と結婚するのにはぜんぜん抵抗はありませんでした。いざ、結婚してみると、大変だなあとはつくづく思いましたけど（笑）」

一生懸命やっただけ、期待通りのものが出来るし、反対に手を抜くと、そのまま結果に出てしまう。そこが農業の魅力であり、難しさだと語ります。

「妻がいたからやろ気が出たし、子どもがいたから、がんばることができたと思います。もともと負けん気が強く、他人が一つの仕事をすれば、自分は二つも三つもするっていう性格ではありましたが、その点では一生懸命やっただけという自負はあります」とこれまでを振り返る龍廣さん。それを傍らで見続けた園枝さんは「お父さんと一緒に、（龍廣さんも）愚痴ひとつ言うことがなかったんですよ。すごいことだなあ、って思います」。

## 目の輝きに魅かれて



梅木 武彦さん 夫婦  
梅木真由美さん



### 甘

味が多く、酸味・香りがあ  
り、新鮮。

昼と夜の温度差が大きく、夏涼  
しいのがおいしいトマトのできる  
ところ。

九重町は年間約950トンの「お  
いしいトマト」が産出されます。

「消費者から見ると、水と空気が  
と土が清潔で、すがすがしいイメ  
ージがあると思うんです。そうい  
ったのをもっとアピールして、『九  
重産の』と指名買いをしてくれる  
ような、ブランド作りがもっとで  
きたらなあ、と思います。そして  
作っている人の一生懸命さが伝わ  
れば・・・」

梅木武彦さん・真由美さん夫婦  
は、両親と共に菅原で9種の兩よ  
けハウスを使ったトマト作りをし  
ています。年間に、生食用のトマ  
ト約25トンがここから生み出され  
ます。品種は桃太郎8。以前のも  
のに比べ、病害虫に強いのが特徴  
です。

「いいものは、いい土から」は  
トマトも同じ。梅木さんは、山か  
ら力やを切ってきて牛糞と一緒に  
混ぜ込んだ土作りをしています。  
「そうすると病気に負けにく  
いし、連作障害にも強くなつてき  
ます。トマトが喜ぶような土を作  
ることですね」

土壌分析も欠かせません。そこ  
から得られた結果をもとに、不足  
する養分を効率的に補うことで、  
化学肥料にあまり頼らない低コス  
トのトマト作りが実現できます。

「やっぱり、おいしいと言われ  
るトマトを作っていきたいです。  
それも、差別化を図り究極のトマ  
トを目指すのではなく、産地全体  
がレベルアップして、みなさんが  
毎日、いつも気軽に、かつ満足し  
てもらえるトマトを作ることが目  
指す方向じゃないかなあ、って考  
えています」

トマト作りは機械化が進み、  
重労働。最盛期は夜明けから陽が  
暮れるまで働き通しのこともあり  
ます。そんな日は終わった後のピ  
ールが楽しみだと武彦さんは笑  
います。

「でも、機械化が難しいからこ  
そいいものが出来るという面はあ  
ると思います。人の手が入る余地  
があり、そこで違いが出てくるの

が、おもしろいです。町内には、  
トマト作り30年以上という方がた  
くさんいて、みんなそれぞれが独  
自の技術を持っているんですよ。  
教えられることが多いです。自分  
にとっては先生です。まだまだ勉  
強することがたくさん。僕ですか？  
はい、独自の技術があります(笑)。  
毎年同じようなものを作っている  
ようだけども、毎年違うし、毎  
日違う。飽きないですね」

輸入野菜の増加などにより、野  
菜の出荷価格は全体的に下がる傾  
向にあります。しかし、トマトは  
パブル景気の時期に比べ8割くら  
いの水準に落ちたものの、ほかの  
野菜に比べると価格は安定してい  
る方。鮮度が落ちやすいため、輸  
入が難しいことや、野菜全体では  
減っているといわれている消費量  
が、トマトは逆に少しずつ伸びて  
いることが要因として考えられま  
す。町内のトマトを生産する農家  
数もあまり減っておらず、むしろ  
梅木さんも所属するJA玖珠九重  
のトマト部会は増加傾向にあると  
いいます。現在会員は87人。とて  
も元気がいいのがこの会の持ち味。  
「横のつながりを大切にしてく  
れるし、情報交換もいろいろでき  
て、助かっています」

トマト作りにも減産が求めら  
れることから、部会ではハウス全  
体を網で覆い、病害虫を防ぐ試み  
を昨年実施したところ効果が非常  
に高く、引き続き取り組む予定。  
また、土壌分析結果に基づき、必  
要なだけの肥料と水を混ぜたもの

を機械で自動的に管理する「液養  
土耕」と呼ばれる手法も取り入れ  
ようとしています。  
地元も元気で、梅木さん一家  
の住む菅原地区は町内有数のトマ  
ト産地のひとつ。6月のスタミナ  
会、収穫を終えた後の旅行などの  
暇を深めるだけでなく、お互い  
切磋琢磨するかけがえのない仲間  
でもあります。

経営体質強化も課題。昨年、経  
営コンサルティングに経営状態を見  
てもらったこともいい刺激になり  
ました。  
「仕事のやり方自体は昔からそ  
んなに変わるものじゃないけど、  
考え方がいかに古かったか教えら  
れました。投資効果の計算方法を  
習ったのですが、これを今後の経  
営に活かしていきたいと考えてい  
ます」

より足腰の強い経営にしてい  
くため、トマトの経営規模を増やす  
一方、コメ、肉用牛、シイタケに  
も力を入れ、複合経営の充実も税  
野に入れていきます。  
武彦さんは農業を始めて8年。  
その前はJA九重町(当時)に勤  
務し、コメの販売を担当していま  
した。

「常会などで、農業はいいよと  
話していたら、いつのまにか自分  
も農業はいいなあ、と思うよう  
になって(笑)」

何よりも、当時出会った60代、  
70代の人たちの、農業について話  
すときの目の輝きに強く魅かれた  
と振り返ります。

# 一畑五十品

竹ノ井雪子 さん



## 日

々、豊かな農産物を生み出さ  
ないのは、家庭菜園

町内では家庭菜園に親しむ人が  
多く、竹ノ井雪子さん（上庄）も  
その一人、自宅に隣接した5ア  
ールほどの畑で野菜作りを楽しんで  
います。作っている野菜をあげて  
もらったら、ネギ、ホウレンソウ、  
レタス、ジャガイモ、・・・スーパ  
ーで見かける野菜のほとんどが出  
てきました。その数約40、花も作  
っており、それを合わせると50種  
類以上。家庭菜園コンクール（J  
A玖珠九重女性部主催）では、こ  
れまで最優秀賞と優秀賞をそれぞ  
れ3回ずつ受賞しています。

「種をまいて育っていく姿を見  
るのが楽しいです。じっとしてい  
られないタイプで、手入れとかで  
大変とか思ったことはありません  
ね」と竹ノ井さん。

出来た野菜は家庭で消費するほ  
か県外に住む子や孫にも送ってい  
るそうです。

「おばあちゃん作った野菜は  
匂いも味も違っておいしいと言わ

「家族でできることが農業のい  
いところですよ。ほぼ1日一緒に  
いることができ、家族中心に仕事や生  
活を組み立てることが出来ます」  
子どもの遊ぶ場所がたくさんある  
のもうれしいと真由美さん。子ど  
もは3人、そのうちの一人大輔く  
んが3歳の頃こんなことを言っ

いたそうです。  
「大きくなったらトマトを作り  
たい」  
それを聞いた、武彦さんはうれ  
しそうな表情で、「ちゃんと見て  
いるんだなあ」と。  
しかし、4歳になったら、トマ  
トの合間にサッカーになって、や

れると、ますます張り切っしてしま  
います（笑）

新鮮な野菜をたっぷり食べるこ  
とは、健康につながります。竹ノ  
井さん自身も「ひざが少し痛いく  
らいで、後はいいですね」とその  
効果を実感するようになったそう  
です。

むしろ後の草は発酵させて堆  
肥にするなど、土作りをしっかり  
するのが、うまく作るコツだと竹  
ノ井さん。それに季節に応じた野  
菜を作ること、連作障害を避ける  
ために、作る場所を少しずつ変え  
ていくのも大事。そうすれば、こ  
れからチャレンジする人もうまく  
できるし、化学肥料や農薬にあま  
り頼らなくてすむと話します。

「それに作った人に聞くことで  
すね。野菜も人間と一緒。一人じ  
やできるものではありません。近  
所の人と情報交換したり、苗を分  
け合ったりして助け合っているか  
らこそ、できるもの。みんなのお  
かけです」  
新しいことにも積極的にチャレ

がて・・・  
「サッカーの試合の合間にトマ  
トになってしまいました（笑）」  
子どもが将来、自分の仕事を継  
いでくれるなんて今は全然考えて  
いません。  
「でも、そういう希望というか、  
可能性を持てるのってうれしいこ

とです」  
そう話す武彦さんの目は、本当  
に輝いていました。かつてJAに  
勤めていたとき、出会った農家の  
人たちの目のように。

ンジ、畑作りが一段落する冬には  
漬物作りなども楽しんでます。  
一村一品運動は、ただ作物を振  
興するだけではなく、人々の交流  
や文化を生み出し、豊かな地域づ  
くりをすることが目的でした。そ  
れからすると、竹ノ井さんの家庭  
菜園からは、多彩な交流や豊かな  
文化が生まれており、立派な一村  
一品運動といえます。

「これからもできるだけ続けて  
いきたいです」  
取材に訪れた日、畑には、ニン  
ジンの芽が出ていました。白い花  
を咲かせるころには、家庭菜園が  
一番にぎやかなる夏を迎えます。  
次の季節に向けて、  
竹ノ井さんは今日も畑に向かい  
ます。



# この果実には 九重の青空が つまっている



永樂 和哉 さん 夫婦  
永樂 麻美 さん



## 平

地に比べ少し早く秋の訪れ  
る九重町。

青空の美しいこの季節にびつたりなのがナシの味。いくら食べても飽きることはない、みずみずしい甘みは、最高の味覚のひとつ。しかし、九重のナシは産地を守る、厳しい戦いを強いられています。

JA玖珠九重のナシ部会の部長を務めるのが永樂和哉さん（物見塚）。妻の麻美さんと共に、3箇所合計180アールのナシ栽培をしています。親の代から続いているというナシ園で、永樂さん夫婦が特に力を入れているのが、土

作り、堆肥をたっぷりと仕込み、土の力を活かすことにより、化学肥料などをあまり使わなくてすむようになるだけでなく、収量も安定するといえます。20年以上前から取り組み始め、現在10アール当たりの収量が3・5トン、これを4トンまでにするのが当面の目標です。

「味の面でも良い影響を与えています。機械では測れない食味というんでしょうか、それは自分でも感じます。これはナシだけのことではないですが、アタタん所のは味がいいと言われると、やっぱりうれしいですね」

農業の喜びについて聞くと、多くの人がやはり永樂さんと同じようなことを答えます。職人技ともいえる技術が九重町の農産物の品質の高さを支えているのは確かなこと。永樂さんは、地面の奥深くまで堆肥を混ぜ、さらに「力のある土作り」に取り組みたいと張り切っています。また、農業もなるべく使わなくするなどで低コストをさらに追求していく心構え。ただ、ナシの出荷価格が低迷するのとは逆に資材価格は上がっているという苦しい台所事情も背景にはあるようです。

ナシにとつて一番の脅威が台風。精魂込めて作ってきたものが、一瞬のうちに無駄になってしまふ。このむなしさや悔しきは経験した人しかわからないものかもしれせん。実は、春の晩霜も同じくらいに大敵。永樂さん夫婦のナシ園

には、全面に雨よけハウス（ビニール製の屋根）が張られており、ポイラーを炊くことで霜がいくらかは防げるものの、春は心配が絶えないそうです。また、露地モノに比べ時期が早く出荷でき、価格面で有利になるのも利点。とかく集約型になりがちな作業も天候に左右されることなく労働配分ができる効果もあります。

「ただ、雨だから休もうというわけにはいけなくなりましたけどね（笑）」

ナシの作り手は、高齢化や後継者不足などで年々減少。価格の低迷がさらに追討ちをかける結果に、ナシ部会も、和哉さんが農業を始めた30年前には60人いた会員は10人まで減少。やめていく農家に、

「取材に訪れた日は、受粉を終えた後の木の摘果（てつか）作業の最中。」

「ナシ園が団地化していないので、隣の農家が引き受けて続けるというわけにはいかないんです」と表情は曇ります。

「自分で人に誘われずに、思ったとおりにはできないこと、いいものが出来たときは、努力した甲斐があったなあ、って、そんなのが農業の良さですね」

「後継者はいます。しかし、先行きが見えないので、自信を持って薦めることができません。自分としては、やってみてもらいたい気持ちはあるのですが・・・」

「はさみの軽やかな音を響かせながら、そう話す和哉さん。農業一本で生活できるなんて、自慢できることだっと思っていました」と、数メートル離れたところで同じように麻美さんがはさみの音を響かせています。

「一人ではどうにもならない。仲間がまとまらなければ・・・」かつてカタログなどを使った個人販売に10年間取り組み、固定客

などをつかむ成果があった一方、個人ゆえに安く買い叩かれた苦い経験や大量の商品を個人で売る限界などを感じたという永樂さんは力をこめてそう語ります。町内の生産者だけでなく、ナシが町の一村六品に選ばれたことで、技術講習会などで、他産地の生産者とのつながりもできたことも、励みになったといえます。



# 名脇役の笑顔

中村 康さん 夫婦  
中村 公子さん



ト

トラックの運転手から花農家へ。  
「もともと花は好きで、花屋になりたかったくらい。ただ作り手になっただけです」  
こう話すのは中村康さん。入り口で迎えてくれた姿が農家の風景にびったりとはまっていたので、てっきりこの道何十年のベテランと思いきや、脱サラ組と聞いて、ちょっとびっくり。  
豊前市でトラックの運転手をしていた中村さんが、妻の公子さんの実家のある奥郷へ引っ越してきたのが8年前。それまでは、公子さんの両親が花作りをしていたも

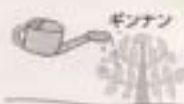
の、二人とも亡くなり、作り手がいなくなつた花ハウスを引き継ぐためでした。花作りの材料は揃っていたものの、経験はもろろん、知識もほとんどありませんでした。そんな中村さん夫婦を温かく迎えたのが奥郷を中心とした地元の花農家の人たち。さまざまなアドバイスを受ける一方、中村さん自身も経験値、失敗を重ねながらも着々と実力をつけ、当初8棟だったハウスも今や24棟まで拡大。担い手農家の一人にまでなりました。しかし、中村さん夫婦の取り組むのはカスミソウ一本。食べていくには難しく、農作業のあまりない冬場には近所のスキー場に働きに出るといいます。

「運転手の頃から比べると、収入は減りましたが、カスミソウの単価が停滞気味のときに入ったので、そんなものかなあ、と。それよりも自由になった感じがいいですね。楽しみながらやっています。精神的余裕ができました」とは言っても、もともとストレスは溜め込むほうではなかったですけどね(笑)。それに、花を相手にしていると、孤独でないですよ。ただ荷物を運ぶのとは確かに違います」  
田舎に移り住んで、人がとても温かいのがうれしいと中村さん夫婦。康さんは、時間があるときは釣りを楽しんでいきます。公子さんはこう話します。

「同じ仕事に取り組むのは、夫婦円満の秘訣です。同じ話題が出るし、どちらかが家を空けたときのために、両方がきちんとできるようなならなければならぬので、助け合うようになりますね」  
友人も多くできました。  
「仲間や子どもと一緒にパソコンの勉強をしています。今度ブログを立ち上げようと思っていますし、いずれはインターネットを使った販売なんかにチャレンジしてみたいです」  
小さなイベントをして、そこで消費者との交流をしてみたいとも話します。  
「買う人がどんなことを思っているのか知りたいです。よくカスミソウは高いといわれるけど、たとえば売価を小さくするなどして、消費者が手にとりやすい環境を、販売する側も作ってほしいと思います」  
野菜に比べ、花は産地化が難しいといわれています。具体的な花の名前をあげて、「産地は？」と問われると、すぐには答えられないことが多いのは確か。一方で、花は嗜好品から生活必需品へと変わっていきつつあり、消費量も伸びています。今後、花の産地化を図っていくのは有効な戦略。飯田地区のカスミソウもやり方次第では、十分産地化できるだけの力を持っています。映画にしてもなんにしても、脇役がしっかりしなければ、傑作にはなりません。花の中では名脇役とも言えるカスミソウ。この名脇役をどう活かすか。町の力量が確かに問われています。また、規模の小さな農

「うれしいのは、やっぱりいいものが出来たときですね。一生懸命できるのが農家のすばらしさだし、ちょっと手を抜くと正直に出てくるのが怖いところ」  
「ただいいものを作るだけでなく、しっかりと儲かる農業にして後継者にバトンタッチしたいと話します」  
「そのためには規模を拡大するだけでなく、肥料や農薬を少なくしたり、単収をあげていかなければなりません。カスミソウは特に日持ちが短いので、長持ちする処方をしなければならぬのですが、これも生産者の腕次第。これからは、もっと減農薬が求められるだろうから、土作りにもさらに力を入れたいと、これからも勉強、ずいっと勉強です」  
現在手がけているカスミソウは5種類。さらにバリエーションを広げるため17種類のカスミソウの生育実験中。いずれは違う花にもチャレンジしてみたいと抱負を語ります。花き栽培のこれからについて、生産者同士で話し合うことはしょっちゅう。  
「これと思うことを一生懸命すれば、うまくいくはず。カスミソウに熱中です」  
康さんは、そう言いながら名脇役の笑顔を見せました。

# 農業への思いは、 山々を黄色に照らして



吉武 孝司さん 夫婦  
吉武喜代子さん



**(冬)** が始まるころは、このあたり  
の山は燃えたようになり  
ますよ。

吉武孝司さん・喜代子さん夫婦  
(前住)は、そう言いながら新緑  
の山を案内してくれました。一帯  
に植えられているのはイチヨウ(ギ  
ンナン)の木。10アール当たり30  
本弱、それが生産者4人で保有す  
る山いっぱい広がっています。  
九重町は西日本一のギンナンの  
産地。全町で40ヘクタール・約1  
万本のギンナンが植えられています。  
管理の手間がかからず、栽培  
が簡単なうえ、傾斜地でも作るこ  
とができるギンナンは、中間地  
には向いた作物。何よりも出荷価  
格が比較的高値だったことが魅力  
でした。

町内には、もともと在来種があ  
ったギンナン、昭和50年代より市  
場性の高い品種が奨励され、急速  
な伸びを示すと共に価格も上昇。  
良い頃はキロ当たり3000円に  
なっていたといえます。吉武さん  
は当時を懐かしみながら「ゼロの  
数がひとつ進もうんじやないか、と  
農協の職員がなかなか信じてくれ  
なかつたこともありました(苦笑)。  
しかし、日本各地でギンナンが盛  
んに植栽されたことにより、生産  
量が上昇、反対に出荷価格は下落  
していきます。  
「昨年はキロ当たり1,000  
円でした。それでもいい方です。  
良い頃に比べると、3分の1くら  
いですね」  
採算が合わないほ場も増えてお  
り、これに生産者の高齢化が追討  
ちをかけ、全体の2割が放棄され  
ていると吉武さんは試算。現在、  
市場に流通しているギンナンは、  
金兵衛、久寿(きゆうじゆ)、藤九  
郎(とうくわん)、榮神といった品  
種。そのなかでも人気が高いのが  
藤九郎。大粒で貯蔵性の良さが好  
まれているようです。しかし、九  
重町では1割程度を占めるに過ぎ  
ず、大部分が食味は最高とされな  
がらも貯蔵性にやや欠けるとされ  
る久寿から派生した横南(れいな  
ん)という品種。これも問題と吉  
武さんは表情を曇らせます。また、  
ギンナンには去年と裏年があり、  
裏年の収穫量は去年のそれに比べ  
て3割程度。  
「しかし、最近気候変動が激  
しいらしく、台風で葉っぱが落ち  
て、光合成ができなためか3年  
くらいは出来がよくないことがあ  
りますね。3年連続裏年のような  
ものです」

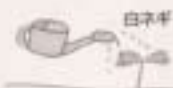
ギンナンが生まれたのは古く、  
1億5千万年前の古生代末期から  
地球上に広く分布したといわれて  
います。果実の栄養価が高く、葉  
も動脈硬化などに効果ありと注目  
されています。しかし、長い時代  
を生き残り、手入れもほとんど必  
要ないとされるギンナンも、意外  
と弱い面を持っています。  
「草刈りを怠ったりして手を抜  
くとすぐに弱ってしまします。そ  
うなると病害虫を自らの力で駆除  
することができず、枯れてしま  
うこともあります。木の力をしっ  
かりつけるためには土作りも大事で  
すね」  
吉武さんは、なるべく化学肥料  
を使わない土作りをしており、ま  
た、収穫後の処理に工夫を凝らす  
などで「普通のよりももちもちして  
おいしい」と言われることがよく  
あるとうれしそうに話していました。

もともと吉武さんはナシ農家。  
現在も1ヘクタールのナシ園を手  
がけており、「ギンナンを始めたの  
は体が心配だったから。あまり農  
薬を使わないですむギンナンなら、  
そういった心配をしなくてすむだ  
ろうし、面積をかせばどうにか  
なる」と見込んでいました。  
30アールで始めたギンナンも3  
ヘクタールまでに拡大。植栽から  
収穫できるまで、7年かかると  
いわれており、市場価格も好調だ  
った当時、木の生長を見守るのが  
とても楽しかったと振り返ります。  
若かった頃は、3ヘクタールのほ  
場を1年に3回、つまり、9ヘク  
タールの草切りを一人ですべて  
といます。  
「ギンナンをどんどん増やして、  
ナシを半分にしていこうと当時は  
考えていました」  
しかし、ギンナンの出荷価格の  
低迷により見込みは外れ、今でも、  
収入割合は圧倒的にナシの方が多  
いといえます。ただし、手をこま  
ねいてはいただけではありません。  
吉武さんが部長を務めるJAギン  
ナン部会(個人)では、消費者に届  
きやすいように少量パックでの市  
場出荷や、藤九郎より大粒という  
新品種の採用、さらには低温貯蔵  
庫の導入などを模索しています。  
果実と共にあった農業。振り返  
ってみて「果実は難しいとつくづ  
く思います。作ることだけでなく、  
売る能力も大事。人より一歩も二  
歩も先を行くことですね。みんな  
が良いと言いついたら、もうそれ  
は終わり」。  
ナシができれば何でもできる、  
とも話す吉武さん。  
「百姓のいいところは、努力す  
ればちゃんとその分は返ってくる  
し、いろんな作物に取り組むのが  
できること。思うより、やってみ  
ることです」。そんな言葉は重み  
と共に農業への深い愛情や知識を  
感じさせてくれます。  
「いろいろ勉強はしました」  
「でもあまり儲けがなかったから、  
身につけていないようですね」  
そう語りながら笑いあふ夫  
婦。さっきまでの山を振り返ると、  
夕焼けがイチヨウの木々を黄色に  
照らしていました。それは、まる  
で燃えているよう。  
「またあきらめてはいけません」  
吉武さんはそう呟きました。



## 農業をしている限り、 感激は毎年続くもの

平 猶 法 さん 夫婦  
平 由 美子 さん



### 九

重町では、ナシ、トマト、キャベツ、シイタケ、花き、豊後牛が一村六品として指定されています。さて、七品目、八品目の指定を受けるとすれば何になるでしょうか。まず、考えられるのが、今年から西日本の産地として本格的な収穫が始まるブルーベリー。すでに西日本一の産地であるギンナン。またまた候補はたくさんありそうですが、白ネギも良さそう。町内でも栽培農家が順調に伸びており、「九重産のものは甘みがあり、品質も良い」と市場での評価も随分と定着。生産者の間では、消費者に親しみやすいネーミングを検討するなど、ブランド化へ向けた段階まで進んでいるようです。

平猶法さん・由美子さん夫婦（書曲）は現在、3箇所のは場で合計13ヘクタールの白ネギ作りをしています。

ネギに注目した理由は二つ。大分県の戦略作物に選ばれていることもあり、補助制度などがあることや価格が比較的安定（キロ当たり300円〜400円）していること。

取り組んでいるのは夏秋白ネギ。春に定植し、7月から12月頃まで収穫。冬から春にかけての苗作りがこれに加わります。苗から一貫生産することで、コスト削減の面でメリットが大。苗作りをするのは、ほ場に隣接する20アールの重量鉄骨ハウスで、以前バラ作りで利用していたもの。出来た苗は郡内のネギ農家約20戸にも供給しており、今後さらに増やしていきたいと話します。

平さんも所属するJA玖珠九重のネギ部会には、現在約80人が所属（うち半数程度が九重町の農家）。作付面積も郡全体で30ヘクタールに迫ろうとしています。

野菜農家が共通して頭を痛めているのが出荷価格の低減。その要因として考えられるのが、15年間で約10%落ちたとされる消費者の野菜離れ。そして輸入の増大。ネギも約10年前から急速に伸びており、ここ2、3年は落ち着いたものの、全流通量の10%程度を占めるといわれています。そのほとんどが加工用であるため、生食用を

作っている平さんにとっては、「今のところ脅威ではない」ものの、「国内野菜が不作の場合、輸入量を増やして価格を抑える図式が市場でできています。生食用のネギもそうなりかねない」と今後の動向は気になる様子。

しかし、価格競争するのも大変、ネギの場合、収穫してからが大ごとなんです。商品化するための薄皮むきや規格別に分けたり、箱詰めしたりする調整作業は、現段階では人海戦術に頼るしかない。ここらへんをどう省力化していくかが今後の課題ですね。

平さんは堆肥を使った土作りにも力を入れており、3箇所のは場で合計約40トンの堆肥を入れ、なるべく化学肥料を使わなくてすむような工夫をしています。

「結果は味に出てくるようですね。農業についても、良いものを作るためには、どうしても使わなれないといけない部分があります。よく観察するなどして必要最小限に抑えています」

周辺農作物への農薬の飛散低減に努めるなどが盛り込まれたポジティブリスト制度が5月からスタート。平さんがネギを作っている恵良代では水稲を中心にさまざまな作物が混在するところ。農薬の取り扱いは、相当な注意をしています。

「自由気ままにやっていきかけた」。平さんが勤めを辞め、農業を本格的に始めたのは、13年前

40歳のときでした。当時はバブル景気の影響もあり、農産物の出荷価格もまずまずだったようですが、すぐにバブル崩壊。

「それ以来、価格もずつと低迷で、あまりいいことなかったです。話は大きくなりますが、国の農業政策や計画も役人が机上で考えるだけでなく、農民たちの声をじっくり聞いて作ってほしいです。町も農業が基幹産業のひとつなんだから、より理解を深めてもらえたら、と考えています」

大吊橋の完成を機に、さらに増える観光客が農業にも目を向けてもらえるような施策にも期待。

「九重町はいろんな可能性を秘めていると思いますよ。たとえば、標高差（気候差）を味方に出荷時期を少しずらすし農産物を安定的に供給することで産地のブランド化も可能ではないかと考えています」

規模拡大も模索中という平さん、農業人生の折り返しにはまだまだ到達していないようです。

「農業の喜びですか？難しいなあ。月並みだけど、モノを作る楽しさ。それに、うまくできたときの感激かな。ただ、その感激は毎年続くものと思っています。そのほかにありそうだけど、うーん、まだ見つかっていませんね（笑）」

取材時、由美子さんが不在のため、写真は猶法さんひとりになっています。

## トキの学校は田んぼの中

環境破壊などが原因で日本から姿を消したトキ。

このトキが住めるような環境を取り戻そうと、町内ではNPO法人九重（くじゅう）トキゆめプロジェクト（高橋裕二理事長）が活動を続けていますが、子どもたちも奮闘中です。

トキごども大使は「おたまじゃくし救出作戦」が3月29・30日の2日間、瀬戸にある熊谷泰宏さん宅の田んぼで行われました。

同大使は昨年夏に飯田地区の小中学生で結成、全国にコンピニエンスストアなどを展開するセブンイレブンが来年春季開校を目指す「九重ふるさと自然学校（仮称）開校準備室」の呼びかけで集まったものです。

救出作戦をした田んぼは「瀬戸代」と呼ばれる昔ながらの温床を使った苗作りが行われており、一般の水田よりも一足早く数万匹のおたまじゃくしが生息。これを誘殺する「アールほどの田んぼ」に移し、「おたまじゃくしや自然発生の植物や昆虫などの生態を観測する」オトープを作るのが作戦の全容です。

トキごども大使は、トキごども大使



やごどもエコクラブ（20ページ参照）に所属する子どもや関係者約10人、1日目には新しい住みか「オトープ」となる田んぼの地ならしなどの「土木工事」、2日目は温床の水が入ってくるように「水道工事」。おたまじゃくしの引越しを無事終えました。新居の住み心地はなかなか良いようです。

トキごども大使では、作戦を敢行した田んぼで出来た温床を使い、昔ながらの農法によるコマ作りを別の場所にある田んぼで実施。現在の農法との比較や今回作ったオトープの観測などを通して、トキの餌場となる田んぼ作りの研究を進めることになっています。また、この田んぼは飯田小学校の学校田として使うことも決定。授業の教材になります。

## 科学的有機栽培のススメ

有機栽培実践講座が4月15日、すずき山荘（飯田高原郷約）で行われ、町内で有機栽培に取り組み農家など約20人が参加しました。有機栽培は化学的に合成された肥料や農薬の使用を避けるのが基本。堆肥などを活用しながら、「土の持つ生命力」を活かす農業とされており、農産物の安心・安全志向が高まると共に注目を集めています。

しかし、経験と勘に頼る部分が多いのが現状。参加者の一人は、①失敗が多いの手間がかかる②収穫量が安定していない、③有機栽培の問題点と指摘。今回の講座は、土壌を科学的に分析。リンやカリなど約10種類の必要な肥料成分を効率的に施す（肥料設計する）ことにより、安定的に収穫が上がり、かつ低コストの有機栽培をめざそうというものです。

講師は、興ジャパンバイオファーム（長野県）代表の小祝政明さん。昨年3月に発刊した「有機栽培の基礎と実践（農文協）」は半年で5刷を重ねるなど注目の人。小祝さんの町内での講座は今年3月に続いて2回目になります。

講座では、作物の細胞や組織の成り立ち、光エネルギーなどの作物への物理的作用などを紹介しながら、「外壁（細胞など）」のしっ



かりした野菜を作ることによって病害虫を防ぐことができる」と説明。土壌分析による肥料設計の重要性を強調しました。後半は参加者が持ち寄った土の分析。そこでとれる作物の状態を言い当てながら、分析結果をパソコンに入力すると、必要な肥料の種類や量などを瞬時に算出。参加者に驚きの表情が広がっていました。小祝さんは「有機栽培はすべてを知らなければいけないが、段階を踏んでやれば必ずできる」。

参加者の一人は「今回のような客観的データに基づく有機栽培を広げていきたい。そのために自分たちがまず実践をしていきたい。JAや設立準備中の自然学校などとの連携も深めていきたい」と話していました。

# 農業を守って、地球を守ろう

## 農家意向調査結果

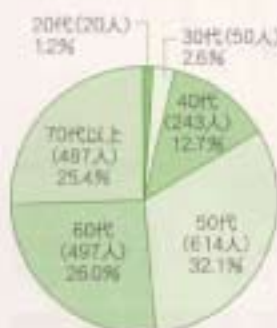
九重町農業委員会では、19人の農業委員が昨年秋、担当地区で10アール以上の農地を持つ農家を対象に、農家意向調査を実施しました。この調査は農家と農地の実態を調べ、地域農業を支える「担い手」の確保・育成を目指し、足腰の強い農業を推進し、地域の農業・農村の維持・発展につなげたいという思いから行われました。

その結果1737戸（専業30% 兼業59% その他11%）からの回答を得ましたので紹介します。



このえ  
農業委員会  
だより 17号

### 主たる農業専従者の年齢



主たる農業従事者は男性75%・女性25%の割合で、50代以上が84%を占めています（60代以上が51%）。高齢化が進んでいるにも関わらず後継者がいると答えたのは32%で、いない・分からない・無回答が68%を占めています。この問題の深刻さがうかがえます。

また、専業農家30%も高齢者の自給的農業によって占められている部分が多いのが現状で、10年・20年先を想像し、その対策を今から考え新しい農業・農村を創ることが求められています。

### 主たる経営作物は何ですか？



水稲の占める割合は大きいですが、ブランド化と価格競争のなかで勝ち残るのは大変です。規模拡大等経費節減を図り、収益をあげられる農業を続けるには、個人だけの努力では、限界があります。

作業の共同化・農機具の共同利用・集落営農への取り組みなどを視野に入れて、地域で考えていくことが大切だと思います。

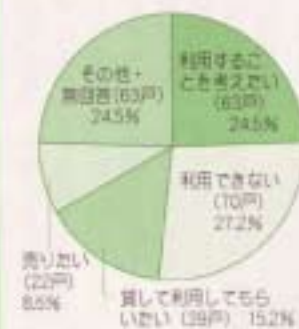
（複数回答があるため、回答者実数を上回っています。）

### 今後の農業経営について



今のまま継続というのには二つの考えが含まれています。「現在の農地を積極的に活用し継続する」というものと、「農地は手放したくない、自分のできる間は続けるがその先のことはどうして良いかわからない、考えられない」というものがあると思われます。担い手の育成や、一戸一戸の思いを汲みとった地域の取り組みが急がれます。

### 遊休農地があると回答した257戸の農家の意向について



回答者の15%にあたる257戸の農家で遊休農地があるという結果ができました。利用を考えたという中には「減反制度が終わったら耕作する、畑として利用を考えている」などがあり、利用できないという中には「長年耕作放棄して荒廃している、獣害がひどい、水系が変わって出来ない」などいろいろな事情があります。利用可能な農地を、地域で支えたり、利用できる農家に売買や利用権貸借することを考えていく必要があります。

### 農地利用権設定について

農地貸借希望	希望戸数	内 訳	希望延べ面積
農地を借りたい人	48戸	田29戸 畑6戸 草地11戸 花き2戸	約90ha
農地を貸したい人	82戸	田60戸 畑14戸 草地5戸 果樹2戸 その他1戸	約35ha

### 農地の売買について

農地売買希望	希望戸数	内 訳	希望延べ面積
農地を買いいたい人	29戸	田20戸 畑4戸 草地4戸 果樹1戸	約22ha
農地を売りいたい人	39戸	田26戸 畑8戸 草地2戸 果樹1戸 その他2戸	約29ha

問い合わせ 九重町農業委員会 ☎ 76-3805

今回の調査で農地を借りたい・貸したい・買いたい・売りたい等の細かい情報が集められています。買いたい人・借りたい人は自分の条件に合う農地を探すとき、農業委員会事務局または農業委員に相談してください。農地を貸す人が将来的に農地を失う心配がないように、また農地の利用集積を推進するため、農業委員が承認する手続きを行っていますので、安心して相談してください。

今、農業が大きく変わろうとしています。農地を守ることが集落を守ることにもつながります。集落営農や利用集積等を国・県・町でも奨めていますので補助金を活用して、今のうちに農業環境を整備するため、地域の話し合いをぜひしてください。みなさんと農林課・農業委員・JAがいっしょに地域農業振興に取り組んでいくことが今の課題だと思います。

# みんなの力で 取った賞だから、 自分たち二人への ご褒美は 考えていません



坂本 憲治 さん 夫婦  
坂本タニヨ さん

▲右側2人が坂本さん夫婦

## シイタケ 菌床栽培で 大分県農業賞受賞

**第** 37回大分県農業賞・企業賞  
農家の部で坂本憲治さん・  
タニヨさん夫婦（乾屋）が特別賞  
を受賞しました。

「これほど立派な賞をもらえ  
とは思っていませんでした」と少々  
戸惑いながらも、とてもうれしそ  
うな表情の坂本さん夫婦。取り組  
んでいるのが菌床ブロックを使っ  
たシイタケ栽培。もともと町内  
では原木（ホダ木）を使ったシイタ  
ケ栽培が盛んなところ。栽培農家  
は毎年春先にコマ打ち、半年から  
2年後に収穫を迎えますが菌床栽  
培も流れは同じ。おがくずに米ぬ  
か、ふすまなどを混ぜたものでレ  
ンガより一回り大きい菌床を作り  
高温殺菌。そこへシイタケ菌を植  
え付け5カ月ぐらいで収穫します。  
ただ菌床栽培は1年中収穫するこ  
とができるのが原木栽培との大き  
な違い。規模拡大も容易にでき  
る一方、設備投資のための経費のほ  
か、夏場の冷房費や冬場の暖房費  
などの維持費も多くかかります。  
平成元年に5千ブロックで始めた  
菌床栽培は10万ブロックまで拡大。  
同16年には「やまなみきのこ産業」  
を立ち上げ、法人化。坂本さん夫  
婦、息子さん夫婦、そして7人の  
従業員で作業に取り組んでいます。  
名実とも菌床栽培の先駆者であり、

第一人者といえます。

坂本さん曰く「工場生産的」な  
シイタケ作り。ですが、大事な点  
は原木栽培と同じ。菌床を作るた  
めの大きな機械の前で続けます。  
「良いシイタケを作るには良い  
ホダ木を作ることが大事なように、  
菌床栽培の場合も良い菌床を作る  
のがポイント。品質の90%がここ  
で決まると言っていて良いと思います」

大分県のシイタケが日本一にあ  
るのにはクヌギを原木にしているの  
が大きく寄与しているそうです。  
坂本さんも今年から菌床の材料を  
現在のシイ・カシ・ナラからクヌ  
ギに変更。出荷するのは生シイタ  
ケのみ。肉厚が大きく、品質も優  
良で福岡県を中心に「ステーキ用  
シイタケ」として人気を集めてい  
ます。品質も原木栽培とほぼ同じ。  
今後はさらに規模を拡大、生産量  
を上げ、いいものを安く届けたい  
と話します。また、役目の終わっ  
た菌床が腐葉土に近いことにも注  
目。これを使った「腐葉型有機野  
菜産地」として地域発展ができな  
いかと考えています。

いいと  
思ったことは、  
なぜしないのか。

坂本憲治さんが農業を始めたの  
が1968年。  
「コメとか牛とかいろいろして  
いましたね。何をしていいのかわ  
からなかった。シイタケも親が取

り組んでいたし、周りも多かった  
から、という感じでした」と当時  
を振り返ります。25歳の時にはお  
がくずを使ったナムコ作りを始め  
ますが失敗。撤退までの5年間で  
多額の借金を抱えてしまいました。  
しかし、この経験は後に菌床栽培  
のシイタケ作りの糧に。

「重要なところにはしっかりとお  
金をかけること。そしてしっかり  
した設備を作ることが大事だとい  
うのを学びました。当時はそれが  
できませんでした」

悩み、眠れない夜も数多くあつ  
たといいます。

そんな時、交流していた人の発  
したある言葉に衝撃を受けます。

「いいと思ったことは、なぜし  
ないのか」

自信を失いかけていた坂本さん  
は、この言葉に勇気をもらいます。

40歳になった坂本さんは菌床栽  
培のシイタケ作りで勝負に出ます。  
ほかにも理由がありました。当時  
高校に通っていた息子の康一郎さ  
んが将来農業を継いでくれるには  
規模拡大が必要と判断したことや  
坂本さん自身が腰痛の持病があり  
重労働が難しくなっていました。  
最初から順調だったわけではあ  
りません。

「シイタケが思うように出てこ  
ないなど、失敗もたくさんしまし  
た。でも、やめようと思ったこと  
はありませんでした。引き返すこ  
とでもできませんでしたし、……」  
時間を見つけては夫婦で視察研  
究。その気になれば九州内での研



## 上昇気運に のっていこう



▲左から、佐藤大平さん、佐藤亮司さん、佐藤進太郎さん

新規就農者激励会が4月21日に大分県玖珠総合庁舎（玖珠町）で行われました。

今年の郡内の新規就農者は8人（九重町4人）で、激励会には5人が参加（うち3人が九重町＝写真）。県西部振興局の尾田隆司生産流通部長が「技術力のみならず、経営力も身につけてほしい。関係機関も積極的に関わっていくので、心強い気持ちで取り組んでほしい」と激励。一人ひとりに記念品として鍬（くわ）やスコップを手渡しました。また、玖珠郡農村青年連絡協議会の吉村弘行会長は「環境は大変厳しいが、これほどやりがいのある仕事は他にない。不安や悩みはあると思うが、気軽に声をかけほしい。みんなでがんばっていききたい」と声援を送りました。

県では、毎年の郡内の新規就農者の目標数を10人と設定。ここ数年の平均は6人強で、昨年10人、今年8人といずれも平均より上。玖珠郡農業にも上昇気運が出始めているようです。

激励会に先立ち、玖珠郡農村青年連絡協議会の定期総会が同日、大分県玖珠総合庁舎で行われ、約40人が参加しました。まず、蟹頭将治会長があいさつ。「昨年度はこれまで以上の回数役員会や全体会などを行ったほか、3回にわたる女性との交流事業も行い、大変好評だった。農業を取り巻く環境は大変厳しくなっているが、本協議会を通じて活性化を図っていききたい」と述べました。2005年度の活動報告が承認された後、「学習会や他地区との交流会などを通じて本協議会の存在を内外にアピールする」などの今年度の活動計画や予算が承認されました。また、役員改選が行われ、会長に吉村弘行さん（玖珠町）、副会長に日野聡一さん（竜門）、事務局に森龍昭さん（奥郷）が選出されました。

玖珠郡農村青年連絡協議会は郡内の農業後継者によって組織された3宮農クラブ等（ここのえ・飯田・玖珠町）が集まったもので、会員数は現在31人。



▲圃床を作るための機械。手前の機械で圃床を作り、奥の機械で覆面

▼圃床ブロック  
高さ・幅約12センチ、  
奥行き約20センチ



修は日帰りでも可能だと坂本さん。九州内で圃床栽培に取り組んでいる人は少なかったため、自然と全国各地の人と交流するようになり、いろいろな人と交流できるのも農業の魅力だと思えます。大分県産のこセンターなど指導者にも恵まれたのが良かったはず。結局、軌道に乗るまでにはさらに10年の月日がかかります。その間、唐一朗さんも経営参画。そのときは、うれしかったけど、不安もありました。・今は良かったと思います」

## 最近では若い者に 負けず、 でも、負けて うれしいです。

シイタケの相場が良かったのは、昭和40年代から50年代。その後、中国からの輸入品に押されるなどして下落。ここ数年持ち直してきたものの、最近になってやや下落傾向にあるようです。また高齢化や後継者不足などにより、シイタケ生産者は減少しており、「輸入品が入ってくる余地のないよう、原木栽培の農家と共に産地を守っていかねばならない。産地間競争にも勝ていかねばならない」と坂本さんは意欲を見せま

す。そこで大きな力となるのが後継者。坂本さんは後継者育成にも力を入れており、研修生の受け入れのほか、年間30回くらいあるという視察研修も積極的に応じています。

「せっかく自分の覚えたものを息子だけに引き継ぐのはもったいない。みんなで共有していききたいし、若い人の力が必要ですからね。自分の仕事としてがんばれる農業ってすばらしいです。それにチャンスが必ずある」

「傍らのタニヨさんも一働いたら働いた分だけ返ってくる。そこが農業の魅力ですね。失敗して、借金などで苦しめたこともあるけど、今になってみると、良い経験をしたと思います」。ここで研修をした人が地元に戻って成長していくのを見るのがうれしいと夫婦で笑います。

「みんなまじめだし、頼もしい」とタニヨさんが話せば、恵治さんは「若い頃は、若い者に負けてなるものか、と思っていました。しかし最近では負けます。でも、負けたくないです」と笑顔。

「二人でできた仕事とは思っていませんし、一人だけの力でなく、みんなの力で取ったものだから」と今回の受賞に關して自分たち夫婦へのご褒美は考えておらず、引退後におあずけだとか。

「でもこの仕事に定年はないですからね。いつになるんでしょう（笑）」

「**確**かに1年で作物の収穫はできます。しかし、毎年反省点を洗い出し、それを次につなげなければならないし、そうやって経験を積み重ねることで、やっものになってくる。農業ってスパンの長いものだなあ、と思いました」

井上徹さん（北恵良）は昨年、自宅の農業へ経営参加。勤めていた会社が農業関連だったこともあり、農業そのものに違和感をもつことはなかったといいます。むしろ、なかったこと自体に戸惑いを覚える1年でした。

「新鮮味がないということにもつながりかねないですね。そうすると、ただ流されてしまうのではないかと。そんなことを考えていました。確かに、言われるとおりに動けばいいといえば、それまでですが、それじゃおもしろくないと思っています。そのためには、まだまだ勉強することが多いし、今は、そのことで精一杯です」

両親の、経験から生まれる技術には、まだまだかなわないと笑います。そして2年目は「あ・うんの呼吸で一緒に作っていけるようになりたい」と。

将来への展望はまだ見えず、「いずれ思い浮かべられるようになりたい」と話します。ただ、自分が目指したい方向はおぼろげながらも見え始めている様子。今、国内農業は、大規模化、効率化への志向を強めています。

「流れに乗って、企業的経営を目指すのも大事だとは思いますが。あまり好きな言葉ではありませんが、そんな時代なのかもしれません。でも、見落とされがちな昔の農業みたいなもの。それも大事にしたいです。家はナシを作っていますが、ああいう手のかけ方はいいなあ、って思うんですよ」

まったく違った分野から、就農してくる人たちの多くが持っている農業への純粋さ。それがうらやましいと井上さんは話します。きっと「農業の魅力」もそこにあるのではないかと。ナシのほかに牛やコメに取り組む複合経営。機械化を進め、企業的経営を極めることはできないものの、そこに魅力が生まれてくるのではないかと考えています。

「僕、付加価値という言葉が好きなんです。特徴のあるやり方をしながら、手をかけて、いいものを作りたいと思っています。人の真似できない、俺のものが一番なんだ。そうなりたいです」

時代という言葉があまり好きじゃないといましたが、「そんな時代がきつときますよね」と聞かされると、井上さんは、にっこりとうなずいていました。



井上  
徹  
さん

俺のものが一番なんだ。  
そうなりたいです。

## ふたつめの春 去年から農業を始めた人たち

井上 徹さん  
宇佐淳司さん  
藤近希望さん

昨年の新規就農者激協会（13ページ参照）に参加した新規就農者3人の、1年後の声を集めてみました。

戸惑いや不安もちょっぴりですが、充実の日々です。



**う** まくいかないことが農業の魅力です。先が見えると、自分の場合、あー、こうすればいいのかと手を抜いてしまうと思うんですね。先が見えないからこそ、今に全力投球ができるんです」

藤近希望さん（吉部）。京都や東京での調理師経験を積んだ後、1年前、実家の酪農経営に参加。成牛が25頭。毎朝6時から仕事が始まります。

「調理師をしていたとき、腰を悪くしたんですよ。それで、リハビリがてら家に帰って酪農の手伝いをしていたら、こっちの方がいいやと思って（笑）」

いいやと思った理由のひとつが人間同士のつながり。

「タテのつながりもありますが、ヨコのつながりが取れるのがとてもいいです。郡内の酪農家の中では自分が一番若いのですが、とても開けた感じで、意見を聞いてくれたりするんですよ。それがとてもうれしいし、楽しいなあと思います」

つながりは酪農だけではなく、肉用牛、さらには野菜など、取り組むものは違えど、農業という仕事に対する姿勢などに共感を覚え、刺激を受ける日々。

「1年たったの感想ですか？難しいです。数の計測だけではいかないことが多いです。命あるものを相手にしているわけですから。それに今までの凝り固まっていた先入観がガタガタと壊れましたね。それがとても新鮮でした」

牛乳消費が伸び悩んでいることなどから、全国の酪農家は「生産調整」という問題に直面しています。各地で生乳の自家廃棄を強いられるケースが出始めており、県内でも13年ぶりの減産が決まったばかり。今後は、牛乳の消費拡大を呼びかけるだけでなく、高品質なものを送り出すことが重要と藤近さんは考えています。

「そのために個々の自家配合をしていきたいと考えています。また、2、3年はかかると思いますが、人工授精士の免許を取って、自分で血統の良い母牛を作っていきたいです」

調理師の経験を活かしながらの乳製品作りも視野に入っています。

「漠然とだけど、手がかりが見えてきた感じです」

そう今の心境を話す藤近さん。ちょっとだけ先が見えてきたようです。

しかし、やっぱり「今に全力投球」です。



藤近 希望さん

先が見えないからこそ、今に全力投球ができるんです。

**牛** 50頭に、コメ60アール。宇佐淳司さん（尾本）は、昨年、勤めを辞め、自宅の農業に経営参加。朝は7時から仕事を始めます。

「勤めに出ていたときよりも忙しいです。でも、自分で作ろうと思えば時間の余裕もできるし、がんばった分、形になって返ってくるので、やりがいがありますね。親子でやっているの、コミュニケーションをしっかりとっていくことに気をつけています」

兄弟の3番目。そのせいもあり、自分が農業を継ぐとは思っていませんでした。学校も工業系。家の手伝いなどはしていたものの、知識という面では、ほぼゼロからのスタートでした。就農当時を「自分が引き継いでやっていけるのだろうか」と不安があった」と振り返ります。それから約1年。

「だいぶ少ななくなったけど、不安はまだあります。しかし、手ごたえもあります」

今年3月には結婚。決意も新たにしています。

交流の輪も広がっています。日田玖珠地方の若い畜産後継者10数人で結成する「カウライフ」というグループに参加。そこでの研修などを通じて、状況もだいぶ見えてきました。玖珠郡の畜産市場の価格は依然低迷。市場全体の問題として、優良血統の導入などが求められています。生産者レベルでは、より手をかけ、いい牛を市場に送り出すことも求められそう。

「1年目で一通りの仕事の流れがわかったので、2年目は少しずつ自分が勉強したことを取り入れていきたいです。でも、まだまだ親の知識にはかないませんね（笑）」

郡内の農業後継者が集まる営農クラブでは、野菜、畜産、シイタケなど、さまざまなことに取り組む人たちと交流。そこで、意欲的な活動をし、畜産だけでなく、農業全体の底上げができたかと話します。

30歳までに何かやりたい——そんな思いが宇佐さんを農業へと進ませたと話します。

「後悔はしていません。ほかに道はあったかも知れない、と思うことはありません」

今年、28歳。

「30歳になったとき、任せてもらおうと思っています」



宇佐 淳司さん

30歳になったとき、任せてもらおうと思っています。



時松 禎一さん  
時松 秀子さん  
夫婦

## 土に始まり、 土に生きて、 土に終わる。

② のテーブルに、子ども、孫、それに  
（いつか生まれるだろう）ひ孫がそ  
ろう。そんな日を夢見ています」

時松禎一さん・秀子さん夫婦（奥郷）は  
そう言いながら、笑いました。きつと、そ  
のテーブルの上には、夫婦で作った野菜が  
たくさん載っているはずだ。

「健康のために無理のない範囲で、働い  
ています。あれをやろう、これをやろうと  
思うと毎日が楽しいです」と話す禎一さん  
は今年82歳。

とはいえ本格派。コメ80アール、ミニト  
マトが150坪、そして自家菜園。トラク  
ターや田植え機も運転するそうです。

「新鮮な野菜を食べ、新鮮な空気を吸っ  
てきたのが良かったのでしょうか。若いも  
んの手はなるべくとらないようにと考えて  
いるし、頼られることが生きがいでもあり  
ます」

ミニトマトはJAの直販所に出荷。

「毎年作柄が安定しているので、やめる  
ことがなかなかできなくなりました。直売  
所があり、家で作ったものがそこで売れる  
というのはとても励みになっていいです」  
「健康で、自由に働いてきたことが何よ  
りのこと」と話す秀子さんも畑の見回りが  
術起きてからの日課。「作物の生長を見る  
のが楽しみです」と笑います。

時松禎一さんが農業を始めたのが昭和21  
年。間もなく秀子さんと結婚。

「当時は田んぼが口へクツールありまし  
た。農業機械などまだなくて、人力と牛で  
作業をしていました。みなさんやっていた  
ことではあるけど、今、考えるとがんばっ  
たと思いますよ」

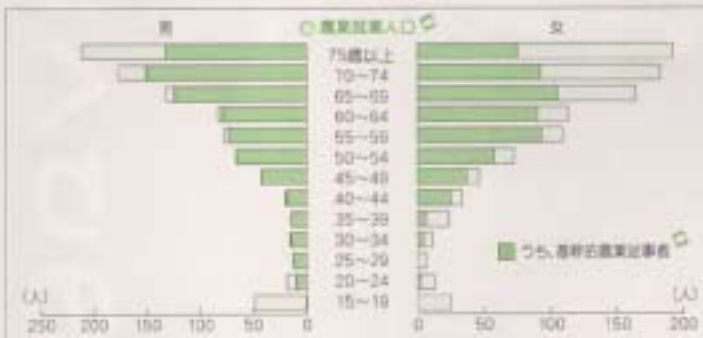
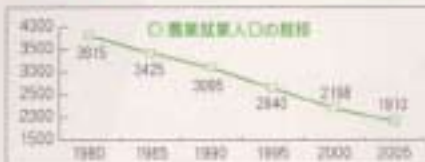
耕運機が入ったのが昭和30年代の半ば。  
家族も多く、とてもにぎやかな日々。その  
中心には3人の子どもがいました。



## 数字で見る九重町の農業 2005農林業センサス結果から

### 農家数・農家人口等

農家数	1527戸
自給的農家	392戸
販売農家	1135戸
農家人口	4727人
農業経営者の平均年齢	53.4歳
同居後継者数	427人 (平均32.9歳)



- 用語解説**
- 販売農家とは 経営耕地面積が30アール以上または農産物販売額が年50万円以上の農家のこと。
  - 農家人口とは 経営耕地面積が10アール以上または農産物販売額が年10万円以上あった世帯の人口。
  - 農業従事人口とは 「自営農業のみ従事した世帯員」及び「農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多い世帯員」のこと。
  - 専業的農業従事者とは 農業従事人口のうち、「自営の主な活動が仕事に従事している人」のこと。
  - 第1種農業従事者とは 農業所得を主とする農業従事者のこと。
  - 第2種農業従事者とは 農業所得を安とする農業従事者のこと。

規模	農家数
0.5 ha未満	258戸
0.5～1.0 ha	456戸
1.0～2.0 ha	275戸
2.0～3.0 ha	65戸
3.0 ha以上	71戸

金額	農家数
販売なし	114戸
100万未満	552戸
100～200万	114戸
200～500万	180戸
500～1000万	118戸
1000～1500万	39戸
1500～2000万	13戸
2000～3000万	16戸
3000万以上	9戸

用途	面積 (ha)
田	1020
畑	529
普通畑	171
牧草地	330
樹園地	64
水田の耕作放棄地	57

作物	面積 (ha)
水稲 (950)	6655
麦 (6)	3.4
豆類 (50)	3.9

品名	面積 (ha)
トマト (139)	22.4
キャベツ (63)	15.6
ダイコン (73)	12.5
ネギ (62)	10.3
ハクサイ (54)	3.2
レタス (11)	2.2
ホウレンソウ (42)	1.9
ピーマン (40)	1.1
イチゴ (9)	0.9
タマネギ (41)	0.7
キュウリ (54)	0.7
ニンジン (39)	0.8
ナス (53)	0.8
その他 (71)	14

品名	面積 (ha)
バラ (13)	5.2
キク (6)	2.7
その他 (44)	18.5

品名	面積 (ha)
ナシ (43)	28.2
クリ (3)	1.2
リンゴ (3)	0.5
ブドウ (3)	0.8
その他 (30)	10.6

品名	頭数
肉用牛 (237)	3885
乳用牛 (23)	850

品名	販売額 (万円)
夏秋トマト	2億5700
花き	3億8300
肉用牛	6億7700
キャベツ	700
ナシ	1億700
生シイタケ	3億1400
乾燥シイタケ	3億7800

(項目の次のカッコ内は生産戸数)  
(作付面積は販売目的のもの)  
※九重町統計書より

「普通の農家とは違っていたかもしれないが、子どもには農家の跡取りになってもらおうとは思っていませんでした。ただ、しっかりと教育を受けさせたかったので、そのことばかりを考え、無我夢中で働きまわした」と夫婦は振り返ります。

昭和40年代前半までは米価も安定、コメと和牛だけでもまずまずの生活ができたものの、そうは言っていられない状況になってきます。教育費をかせぐためにキャベツ作りにも励みました。

秀子さんは「なんとしてもやっていたいかなければならないと思っていました。子どももそれに答えてくれました。それが一番の励みでした」。

仕事の傍ら、植一さんは農業委員を、秀子さんは民生委員を、長年にわたり務める

など、多忙な日々は子どもたちが成長した後も続きます。いつしか、ふるさとを離れて暮らす子どもたちの社会での活躍ぶりを知らせる便りが、夫婦にとつての励みになり、やがて孫たちとの交流がそれに加わってきます。

「子どもが家で作った野菜を持って帰ると、孫が必ず、おばあちゃん、ありがとうって電話くれるんですよ」と秀子さんはうれしそうに話します。

当てが外れたこともありましたが、「農業をやると覚悟を決めたとき、サラリーマンの退職金くらいになればと木を植えたんですよ。今は立派なものが出来たんですが、大きな誤算でした」と植一さん。

10年ほど前に牛をやめると入れ替わる

ようにミニトマトを始め、現在に至ります。「後継者がいないので、規模拡大をしようとは考えていません。昔からの経営規模と昔ながらの方法で農業をやっています」と土と共に過ごす穏やかな日々。

仕事を終えるとき、植一さんの「今晚も飲むか」との誘いで始まる二人の晩酌が楽しみと夫婦で笑いあいます。

「主人から見れば良くしてくれた、子どもから見ればいい母親だった。そう最後に思ってもらえるように、と終始考えていました」

そう話す秀子さんは、「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し」という言葉が好きで、いつも日記帳のはじめに書いているそうです。

「遠き道の向こうには明るい場所がきっとあるはず、自分にそう言い聞かせてきました」

とあるはず、自分にそう言い聞かせてきました。農業と共に歩む人生は当然、苦勞もたくさんあったはずですが。

「遠き道を行くが如し」だった時松さん夫婦のこれまで。今、確かに明るい場所に到達しているようです。

「体に差し障りがあるようになつたら躊躇なくやめます。しかし、最後の見極めは難しいかもしれません」

5月上旬、今年も時松さんの畑には野菜の芽が出始め、田んぼでは田植えの準備が整っています。

土に始まり、土に生き、そして土に終わろうとする人生。

そんな人生に悔いはない。二人はそう新言します。

6月  
スタート

まちづくりの出前始めます。

町民のみなさんのご要望に応じて  
役場職員が地域に出向き、町の事業  
や施策に関する情報を提供し、町政  
への関心や理解を深めていただく、「九  
重町まちづくり出前講座」を6月か  
ら始めます。

町民と行政が協力して「まちづく  
り」を進めるなかで、みなさまのナ  
マの声を聞かせていただく場とし、  
また講座を通じて町民と行政の信頼  
関係を築き、住民参加による協働の  
まちづくりを推進します。

#### お願い（受講の制限）

出前講座は、町民のみなさんに町の  
制度や事務事業などを「理解いただき、  
「まちづくり」を共に考えていただく  
ための意見交換などを行う場です。個  
人的な陳情や苦情、相談などをお聞き  
する場ではありませんので、講座の趣  
旨を十分に理解のうえにご利用くださ  
い。

なお、

(ア) 公の秩序を乱し、または善良な  
風俗を阻害するおそれのあるとき

(イ) 政治、宗教または営利を目的と  
した催し等とあわせて行うおそれ  
のあるとき

(ウ) その他講座の趣旨に反すると認  
められる場合

には、ご利用をお断りさせていただきます。

九重町まちづくり出前講座



■利用できる人

町内在住者または町内の事業所に通勤し、若しくは学校に通学する人で、原則として10人以上の参加者の見込まれる団体等とします。

■講座メニュー

下のような講座を用意しています。また、講座メニューにない内容についてもできる限りご希望にお答えしたいと思えますので、生涯学習課社会教育グループにご相談ください。

■開講時間及び会場

開講日時は原則として、平日の午前9時から午後9時までの間の2時間以内とし、会場は町内に限ります。

■講座の運営及び費用

講座の申込団体、グループ等の主催となります。会場の準備や進行は主催者側でお願いします。また、町職員の派遣費用については不要ですが、会場の設営経費、参加者への

# 出前の仕方

案内など講座に必要な経費は主催者側で負担をお願いします。なお、配布資料については町担当課で用意しますが、講座によっては材料費等を負担していただくことがあります。

■申込みの手順

- ①講座一覧表から希望の講座を選びます。
- ②「九重町まちづくり出前講座申込書」(各地区公民館にあります)を開催希望日の2週間前までに生涯学習課社会教育グループに提出してください。(郵送、ファックスでも申込みできます)
- ③受付後、講座の担当課からご連絡しますので、開催日時や講座の内容、当日の進め方等について事前に打ち合わせをお願いします。

■問い合わせ先

九重町役場 生涯学習課  
社会教育グループ  
(☎76-3823)

## 出前講座メニュー

- 九重町の財政について  
財政の現状及び今後の財政推計について〈総務課〉
- 町税の賦課について  
税金と介護保険料の算定について〈総務課・会計課〉
- 安心・安全なまちづくり  
自主防災組織の必要性和組織化について  
国民保護計画の策定について〈危機管理・町民安全課〉
- 美しくうるおいのあるまちづくり  
健康活動の推進について〈危機管理・町民安全課〉
- 九重町自律推進計画について  
2006年3月に策定した自律推進計画の内容について〈企画調整課〉
- 九重町情報化推進計画について  
2006年1月に策定した九重町情報化計画(今後の情報化の方向)について〈企画調整課〉
- 九重町まちづくり基本条例と地域づくり協議会について  
2005年2月に制定したまちづくり基本条例と地域づくり協議会の設立支援について〈企画調整課〉
- 健康増進について  
健康を維持・増進するための生活習慣等について〈食生活、運動、休養、寝静、その他健康に関すること〉〈ふれあい生活課〉
- 介護・国保・老人保健・国民年金について  
介護・国保・老人保健・国民年金の制度、内容等について〈ふれあい生活課〉
- 福祉について  
障がい者自立支援、次世代育成支援、高齢者福祉、その他福祉全般について〈ふれあい生活課〉
- 中山間地域等直接支払制度について  
制度の説明と取り組みについて〈農林課・農委〉
- 品目横断的経営安定対策について  
対策の説明と取り組みについて〈農林課・農委〉
- 農地・水・環境保全向上対策について  
対策の説明と取り組みについて〈農林課・農委〉
- 集落営農組織の育成について  
組織化の必要性和取り組みについて〈農林課・農委〉
- 九重の観光振興について  
今後の九重町観光振興方向について〈商工観光課〉
- 町の水道事業について  
九重町の水道の現状、くらしと水について〈建設課〉
- 議会のしくみと議会運営  
1 議会のしくみはどうなっているのか。  
2 議会議員は議会でどのような活動を行っているのか。  
3 本会議や委員会はどのように運営されているのか。  
4 議会がよりはこうして出来上がっている。(議事事務局)
- 学校教育の今日的課題について  
学力問題、食育・学校評議員制度、学校評価、教職員評価システムなど、身近な問題について〈教育振興課〉
- 高校改革について  
高校改革推進計画と伊珠郡の現状と課題について〈教育振興課〉
- 幼保一体の運営について  
幼稚園・保育園の一体的運営「こども園」のねらいと今後の方向について〈教育振興課〉
- 人材育成事業について  
1989年度より実施している人材育成事業の説明について〈生涯学習課〉
- 総合型地域スポーツクラブについて  
総合型地域スポーツクラブ立上げ及び内泊説明について〈生涯学習課〉

## 10数年後、花の名所がまたひとつ

共助



SCRAP

環境管理協会玖珠支部（井原武廣支部長、理事長兼務）が3月26日に活きいきランド多目的広場周辺の国道側斜面にサクラやモミジ、カシ合計200本を植えました。

同支部は筑後川上流の環境美化のため合併浄化槽推進を目的に、郡内の水道や電気、衛生など17業者が集まったもので、植樹などの環境美化活動も実施。昨年は創立20周年を記念して今回と同じ場所に前述の木500本を植えました。

この日は35人が参加し、半日がかりで作業。

「サクラなどの豊観樹木で国道を行く人の目を楽しませることができたら」と同支部。カシを植えたのは、「自然を守る大切さを訴えるためで、今後も植樹などによる環境美化活動に取り組んでいきたい」と話していました。

10数年後には、きっと花の名所がひとつ生まれつつあるはず。



### News



### Scrap book

各分野から寄せられたニュースを集めました。

## 数年後、四季彩ロードがサクラの名所に!?

数年後、四季彩ロードにサクラの名所が誕生しそうです。

3月24日にパーネット牧場付近の原野（15アール）でミニ植樹祭が行われました。玖珠九重地域林業振興協議会が主催したもので、玖珠郡漁業協同組合やみどりの少年団など約40人が参加。ヤマザクラ225本を植えました。

同協議会は間伐の推進や木材の需要拡大など森林活性化のための取り組みをしており、今回のような植樹は初めて。開会行事で同協議会会長の坂本町長は「すべてのみなさんと一緒に森づくりをしていかなければならない。きれいな花を咲かすことができるように植樹後の十分な手入れを」とあいさつ。グリーンインストラクターの後藤万寿雄さんから植え方などの説明を受けた後、一人あたり約10本を植えました。

「2、3年後には花を咲かせるだろう」と同協議会。

パーネット牧場のある四季彩ロードの沿道では、1999年から町内の地域づくりグループ「フォーラム2001」（佐藤茂会長、今回の植樹祭にも参加）がサクラを植える活動を展開中。会員から集めたお金を元に現在まで350本を植樹。今後、800本のサクラを植えることになっており、数年後には見事なサクラ並木が出現するはず。こちらも楽しみみです。

SCRAP



## これまでも・これからも

子どもたちが地域で主体的な環境学習や実践活動を行う「こどもエコクラブ」事業。この事業に参加してきた「エコ×3クラブ」の4人に対し、継続活動を記念するバッジやアースチャレンジャー認定などが手渡されました（4月19日・役場にて）。

「こどもエコクラブ」事業は環境省が実施。これまでの小中学生に加え、今年度からは幼児や高校生も参加できるようになり、全国で約4,000クラブ、11万人が、生きもの調査やリサイクル活動などに取り組んでいます。

「エコ×3クラブ」は8年前からこの事業に取り組んでおり、1カ月に1回のペースでこみ拾いや学習会などをしてきました。4人全員が飯田中学校の生徒。引き続き活動することになっており、「観光客を増やしつつ、こみを減らしていきたい」と抱負を語りました。

SCRAP



「エコ×3クラブ」の4人。右端はサポーターの野田美智子さん。

## 地域づくりが開花

南山田にある桐木八幡社で、第1回「しゃくなげ祭り」が4月23日にありました。八幡社のある桐木地区には公園がないことから、憩いの場をつくらうと、同地区の住民が同社周辺にしゃくなげを植えることを計画。各家庭からお金を持ち寄り、昨年、一昨年と植えた約120本の開花が始まったのを機に開催されたもの。

日陰が多いなどの条件を考慮して選んだしゃくなげ。花の咲く姿も周辺の風景と調和しており、参加した地元住民約50人はピンクの花を觀賞しながら、料理やカラオケなどを楽しみました。にぎやかさと花に魅かれてか、途中からは観光客も飛び入り。いつそうにぎやかな祭りとなりました。

しゃくなげが加わり、より親しまれる存在となった八幡社について、関係者は「今後も祭りを継続すると共に、年2、3回はここを中心に催しをしたい」。准園小学校やホテル養殖池も近いことから、子どもたちの学習の場にもしてほしいと話していました。周辺には、桜も植える予定で、「地区以外の人もぜひ、どうぞ」。

桐木八幡社は、国道387号線を管理方面に進んで、准園小学校横を通過。100メートルほど行ったところ、左手にあります。

### SCRAP

共助



## 歴史となった寿大学、新たなスタート

### SCRAP



▲新入生のみなさん

第36期九重寿大学の入学式と始業式が4月28日に九重文化センターで行われました。

この大学は高齢者の「もつと学びたい」という声にこたえ、35年前の1977年に発足。実際の大学と同じように単位制などをしく一方、卒業後も研究生として残る人も多く、その研究成果は九重町の貴重な財産となっています。これまで、同大学を卒業して寿学士となったのは、延べ489人。

今年入学したのは21人で、在校生と合わせて157人の新学期が始まりました。

同大学の学長である坂本町長は、「十年偉大なり。二十年おそろべし、三十年にして歴史になる」ということをわざと引用しながら、「どんなことでも小さな積み重ねが大事。一人ひとりが健康に留意し、勇気と希望に満ちた人生を歩んでください」と激励しました。また、新入生を代表して熊谷キリエさん（菅原本村）が「高齢化社会といわれる今日を力強く元気に過ごしたい」と決意表明をしました。

寿大学は3年制で、1カ月に1回のペースで開講。全員で受ける一般教養課程のほか、郷土史、手芸、ワープロ、水墨画などの専門課程が準備されています。

### 6月1日は人権擁護委員の日

人権擁護委員はあなたのまちの相談相手

当日は「全国一斉特設人権相談所」を実施。

九重町でも次のとおり開設します。

日時 2006年6月1日（木）  
午前10時～午後3時  
場所 九重町役場3階会議室  
担当 地元人権擁護委員  
主催 日田人権擁護委員協議会  
(☎ 0973-22-2719)



今回、新たに人権擁護委員に推薦され、法務大臣から委嘱を受けた日野二恵さん。

九重町の人権擁護委員は次のみなさんです。

佐藤 徳義さん（後述）  
☎ 76-13296  
日野 二恵さん（中絶）  
☎ 77-17828  
赤崎 佐代子さん（選挙下）  
☎ 79-12454  
飯田 英敏さん（岩の上）  
☎ 76-12296

◎人権擁護委員をご存じですか

人権擁護委員は、すべての人に憲法で保障されている基本的人権が犯されることのないように監視し、侵犯された場合は速やかに救済するための相談に応じています。

あなたやあなたの身近にあきた事情が人権問題または人権侵害になると思われるときは、お気軽にご相談ください。



## 二人の入学式、とても寂しくない

小学校の入学式が4月13日、一斉に行われ、全町で90人が新1年生になりました。

野矢小学校の入学児童は、麻生日向さん一人。入学式は、担任の米津先生に付き添われ入場する日向さんを、会場全員の拍手で迎え開始。野依不二男校長が「小学校だけでなく、野矢地区のみんなが日向さんに感謝しています。日向さんのおかげで入学式ができるし、6年後の卒業式もできます。入学してくれてありがとう。上級生や先生に何でも相談してがんばってください」とあいさつ。在校生も「小学校にはいろいろな行事があります。一緒に遊びましょう」と歓迎の言葉を述べ、全員で「チューリップ」を合唱しました。

こども園時代には同級生が28人いたという日向さん。父親の昌希さんと母親の昭子さんは「親の立場からすると、一人ということに心配な面もありますが、子どもにとって良い経験になり大人になって誇りに思うようになるはず。今日の

日向は、良くがんばっていると思います」と話していました。全校で15人となった野矢小学校。日向さんは国語・算数は担任との一対一（単式授業）、せいがつ科（理科・社会）は1・2年生、体育・音楽などの技術系の科目は1・2・3年生の合同授業で勉強することになっています。

「いろいろと勉強したい」と話す日向さんの、教室の机の上には、地元住民からの「がんばってください」という手紙がありました。

中学校でも4月12日に一斉に入学式が行われました。今年の各学校の新入学児童生徒数は次のとおりです。

単位：人

学校名	東飯田小	野上小	野矢小	飯田小	准園小	南山田小
児童数	26	25	1	16	13	9

学校名	東飯田中	野上中	飯田中	南山田中
児童数	23	21	30	28

九重町消防団（熊井正徳団長、431人）始まって以来の女性団員が誕生しました。飯田地区の奥郷や九重山を担当する第9分団19部に入団した山口裕子さんがその人で、現在21歳。飯田中村上で両親が経営する食堂を手伝う傍ら、団活動を始めます。3年前、ある消防団員が「彼女ならできるはず」と見込んで入団の誘いをしたのがきっかけでした。山口さんも、最初は冗談で「入れるなら、入りますよ」と答えていたのが、だんだん本気に、話もトントンと拍子に進み、この春ついに入団、というのがこれまでの経緯。山口さんは「小さい頃から消防団のハッピー姿がカッコいいなあと思っていまし

## 初の女性消防団員が誕生



今年度の九重町消防団新入団員は山口さんを含め16人。4月11日に九重町役場で「新入団員・新役員任命式」が行われ、対象者や関係者など約50人が参加しました。熊井団長から一人ひとりに辞令が手渡された後、坂本町長が「防災に向けてしっかりと勉強してほしい」とあいさつ。また、熊井団長は「早く一人前の消防団員になってほしい」と激励をしました。最後に新入団員を代表して山口さんが「防火・防災意識の高揚に努め、町民から信頼されるよう精進努力します」と決意表明をしました。

た。中学・高校ではバレー部に所属するなど、体力には自信があるものの「まだ活動の内容がわからず、白紙の状態」と少し不安げな様子。「出動があると緊張するので、火事は起こさないようにと周りに言っています」とさっそく防火活動に取り組んでいます。「入団したからには、ちゃんとやらなきゃいけないと考えています。できる限りがんばります」。山口さんは6月から訓練に入り、本格的な活動を始めます。

- ◆避難するときは安全に
- ①避難先や安否情報を書いた連絡メモを残しましょう。
  - ②荷物は最小限にし、常に両手が使えらるよう荷物は背負いましょう。
  - ③避難は指定された避難場所、避難所へ。

- ◆家の中にいるとき
- ①身の安全を守る  
急いで机やテーブルの下に身を隠したり、家具の少ない部屋へ移動してください。
  - ②脱出口を確認する  
揺れが大きいとドアや窓が変形して室内に閉じ込められる可能性があります。揺れの合間をみてドアや窓を開け、逃げ口を確認してください。
  - ③火の始末をする  
目の前で火を使っていたらすぐに消してください。火が出なくてもガスの元栓は確実に閉め、電気ブレーカーを切って避難しましょう。





▲下から見たキャットウォーク。空がすけて見えます。



■橋がひけています。



▲写真では、そうでもないかもしれませんが、実際は相当に恐い。



ここまで登り、いざキャットウォークへ。



▼と書くことは、180メートル下の谷底がすけて見えるということ。恐い。



▼北には九酔渓谷。こちらも絶景。



▼南は震動の滝とくじゅうの山々。絶景。



◀180メートル上空からこんなには

## 奥深いスリルを体験

### 鳴子川大吊橋工事現場

10月下旬完成を目指し順調に工事が進む鳴子川大吊橋（仮称）。4月上旬、工事現場にかかる作業用通路「キャットウォーク」を渡り、一足先に空中散歩を体験しました。参加したのは、町関係者や地元支部のある新開社など7人。大吊橋は完成すると、長さ390メートル、高さ173メートル。人道専用の大吊橋としては日本一。キャットウォークはさらに高く、谷底から約180メートルあります。

ヘルメットと命綱を装着した参加者は、期待と不安の入り交じった表情で、兩岸に立つ高さ43メートルの主塔の頂上まで登り、そこからキャットウォークへ。

恐る恐るキャットウォークに踏み出すと、とたんに重心がぐらり。顔は青さめ軽い吐き気が襲ってきまじった。相当に恐い。足がすくみ、なかなか前に進めないうえに足元はさびついた金網だけで、よけい恐怖心をおおっていました。しかし、最初は腰がひけていた参加者たちも10分ほどすると、だいぶん慣れてきて、空中散歩を楽しむ余裕も出てきました。近くには「日本の滝100選」にも選ばれた震動の滝が、遠くにはくじゅうの山々が見え、まさに絶景。快適でした。

この日、キャットウォークを歩いた距離は約100メートル。ある参加者は4日間、足が筋肉痛に、肌寒い日だったため、ジャンパーを羽織っていた一人は汗をぬぐいながら「冷や汗って暑いものだったんですね。初めて知りました」。完成するつり橋は、揺れにくいように設計されており、最初から安心して絶景を楽しむことができます。ご安心を。

周辺整備などを含めた全体工事の進捗（ちよく）率は約60%（4月現在）。今後、橋本体の工事を進めるほか物産館などにも着工。6月下旬には橋の名称も決まり、観光宣伝も本格化。万全の体制を整え、10月下旬オープン予定です。奥深いスリルまであと3ヵ月。

## 大雨等の際の県道通行規制について

次の箇所では、災害復旧工事を行っています。大雨洪水警報が発令されるなどの異常気象時は、全面通行止めとすることがあります。付近を通行される方は交通情報にご注意ください。

### 【通行規制箇所と迂回路】

- ・県道40号 飯田高原中村線 大字町田（町田工区）河内トンネルの上流地点  
→迂回路：町道 四季彩ロード
- ・県道40号 飯田高原中村線 大字湯坪（大岳工区）  
→迂回路：町道 湯坪筋湯線
- ・県道680号 田野宝泉寺停車場線 大字湯坪（豊後渡橋）  
→迂回路：町道 宝泉寺栗原線、四季彩ロード

わかりづらい場合は、大分県玖珠土木事務所 管理・保全班までお問い合わせください。☎ 72-1152

### 通行規制・迂回路位置図



町田工区

# 次の時代は俺たちにまかせろ

2005年度九重町次世代育成支援行動計画実施報告



次代を担う子どもたちが、健やかに生まれ、そして、大自然に育まれながらたくましく成長していくことは私たちの共通の願いです。

近年の子どもたちを取り巻く環境を見ても児童虐待や子どもたちを巻き込んだ犯罪が後を絶ちません。弱い立場の子どもたちを犯罪や事故から守るためには家庭、学校、地域等が一体となり、その防止に努めなければなりません。

九重町では、2005年3月に九重町次世代育成支援行動計画を、多くの方々のご協力をいただいて策定しました。計画のテーマは『山々に笑顔あふれるまちづくり』、サブテーマは【思いっきり抱きしめようあなたの子】【みんなで生み育てよう輝く九重っ子】。この計画に基づき、2005年度は左ページのような具体的実施をしました。今後は、更に「どうしたら一人でも多くの方に行動計画を知っていただき、参加していただけるか」を検討しながら事業を推進します。



## 次世代支援推進委員を募集！

2006年度も次世代育成支援行動計画は、たくさんの事業を予定しています。

そこで、子育てに関心のある住民や児童福祉、教育部門等の関係者に参加いただき、行動計画の進み具合を点検し、より良い子育て環境について調査、研究する「次世代支援推進委員」を募集します。子育て経験の有無や性別、年齢は問いません。九重町の子育てを真剣に考えていただける方をお待ちしています。

- 募集人数 若干名
- 応募期限 2006年6月2日(金)
- 応募先 ふれあい生活課 福祉グループ  
☎ 76-3802

※ 推進委員会は、年2回の開催を予定しています。必要に応じて随時開催することもあります。  
※ 九重町次世代育成支援行動計画書は、役場ふれあい生活課にあります。ご希望の方には、無料で差し上げます。(部数に限りあり)

## 親子ふれあい劇場があなたの地区へ出張公演します(無料)

親子行事や学校行事にいかがですか。



- 期 日 7月～8月  
月曜日～土曜日なら夜に、日曜日は昼であればいつでもOK。
- 時 間 夜なら7時から、昼間は午前・午後どちらもOK
- 出 演 大型絵本サークル ブーフーワー
- 内 容 大型絵本による「三匹の子ブタ」ほか  
(変更の場合があります)
- 公演回数は期間中2回
- 応募締め切り 6月15日(応募者多数の場合は抽選)
- 問い合わせ 生涯学習課(☎76-3823)  
または親子ふれあい劇場役員まで



## 2005年度次世代育成支援行動計画事業報告

事業名	目標事業内容	実績報告等
子育てパンフレットの作成	・子育てに関するすべての事業が、一目でわかるようなパンフレットを作成し、窓口や関係課で配布する。2006年度に製本できるように2005年度はその準備を進める。	・出生後、必ずしなければならない手続きや年齢に応じて受けられるサービスを分かりやすく整理したパンフレット(原稿)を作成した。新生児家庭を母子保健推進委員が訪問する際に携行する資料とした。2006年度当初に印刷、製本して実用化したい。予算計上済み。
家庭教育学習会等の実施状況の調査	・2005年度は、子育てに係わる各種団体の実施する家庭教育関係事業を調査する。 ・2006年度は必要に応じて事業の整理、統合、新規事業の開発に努める。	・アンケート調査は、実施済み。事業の整理、統合については、今後、各種団体との意見交換などを行いながら効果的な事業の推進に努める。
犯罪や事故等を防ぐための学習会や講習会の調査	・上記と同様。 ・2006年度からは、全町で総合的な講習会を開催する。	・アンケート調査は、実施済み。 ・不審者の「声かけ」事案が町内でも発生していることから2月15日に地区老人クラブや民生・児童委員、教育関係者、保護者等で「子どもたちを犯罪から守る会議」を開催し、地域が一体となり、子どもたちを守ることを確認した。
ジュニアデザイン会議でのボランティア研修 	・ジュニアデザイン会議で毎年1回、ボランティア研修を実施する。	・10月1日のジュニアデザイン会議で実施済み。車椅子などを体験し、福祉ボランティアについて研修。(参加者24人) ・参加者の意見や感想も集約済み
公園整備計画の準備	・各地区の公園について調査を行い、2006年度に公園整備計画(各地区の公園の状況や今後、整備の予定があるかなどが記されたもの)が策定できるように準備をする。	・アンケート調査実施済み。26箇所の地区公園のうち、11公園については、危険箇所の整備や施設の充実を希望されていた。また、すでに公園として利用されていないものもあった。2005年度は、地元の管理者と同伴で現場の確認と意見交換を実施する。
ブックスタート支援事業	・2006年度からブックスタート事業が始められるように準備を進める。	・健康診断時などを活用して絵本の読み聞かせを行えるように関係機関と協議した。2006年4月以降に出生した新生児の保護者に対して絵本を贈呈し、絵本を通じた親子のきずな作りを推進する。母子保健推進委員が、家庭訪問する際に実施。予算計上済み。
次世代支援センター子育て支援センターについて地元説明会の開催	・4地区を巡回して次世代行動計画の説明と子育て支援センター(放課後児童クラブ)についての意見交換会を開催する。	・東飯田地区 12月16日 野上地区 12月14日 飯田地区 2月2日 南山田地区 12月19日 以上の日程で意見交換会を実施した。子育て支援センターについてはモデル地区を一部所選定し、2007年4月から開設するため、各地区の意見や施設の状態、地理的な要素などを勘案して2006年6月までには次世代支援推進委員会でモデル地区の指定を行いたい。
次世代支援推進委員会	・目標事業量としては、年1回の開催を予定。	・8月22日に開催。3月に2005年度の評価を含み、第2回目を開催した。
次世代支援庁内会議の設置及び開催	・目標事業量としては、2005年5月に設置し、毎月開催	・7月4日に第1回を開催済み。毎月の開催については、実施できなかった。
要保護児童対策地域協議会	・要保護児童対策地域協議会を設置し、年2回開催する。	・協議会には、代表者会議、実務者会議、ケース会議があり、代表者会議、実務者会議を2月に同時開催した。開設の時期が遅れたため、町民への周知などが充分できなかった。
子育て短期支援事業	・関係機関と協議し、2006年度より委託の方法で実施する。	・児童の保護者が疾病等の社会的な事由により、児童の養育が一時的に困難な場合に児童養護施設(児童学園)で短期入所生活援助を行えるよう調整済み。予算計上済み。
子育てQ&Aの作成	・原稿の作成	・2006年度に印刷、製本できるように準備をした。
父子家庭医療費の助成	・対象者を調査し、2006年度から実施する。	・母子家庭、父子家庭をひとり親家庭とし、医療費の助成を2006年度から実施できるよう準備した。4月の広報でお知らせをしたが、更に周知を図りたい。予算計上済み。
小中高生等の子育て支援事業 	・青少年健全育成協議会が主体となり、事業を実施する。	・事業の目的は、次代の親の育成や思春期の保健対策。2月11日に東飯田地区の育成協や母子保健推進委員等が主催し、中学生17人、乳幼児17人、保護者12人が参加し実施した。また、各地区の子ども園でも小中学校の児童生徒との交流事業が実施できた。

総括(案) 2005年度の次世代育成支援行動計画の事業実績については、2005年3月24日に開催した次世代支援推進委員会において「事業ごとに目標事業量の達成率は異なるものの全体的に予定していた事業は実施でき、良好であった」と評価をいただいた。

2006年度の事業の推進については、更に住民の意見が反映されやすい体制づくりや実施事業について住民の方々には周知できるかが課題である。

## 歯の衛生週間



6月3日～6月9日

# 健康づくりは お口の中から



むし歯は、大切な歯の動きや形をそこなう一番の敵です。九重町は、大分県や全国からみても子どもさんにむし歯が多い状況です。

そこで、玖珠郡歯科医師会やこども園等と歯科保健検討会を開催し、「3歳児の一人あたりのむし歯本数を2本にしよう！」を目標に1999年度から様々な取り組みをしてきました。その結果、少しずつですが、右グラフのようにむし歯の本数が目標に近づいてきました。

\* \* \*

目標に近づいてきたものの、全国に比べるとまだまだです。

子どもの保護者のみなさんだけでなく、家族や地域の人みんなでむし歯にならない環境づくりをしましょう。

また、一生自分の歯で食べるためには、むし歯予防と歯周病予防が大事です。

歯周病とは、歯と歯ぐきの間に歯垢（細菌のかたまり）がたまることで歯ぐきに炎症が起こるものです。そのままにしておくと炎症はさらに進み、やがて歯を支えている骨まで破壊し、歯がゆがんでしまいます。歯周病は、喫煙、ストレス、不摂生な生活習慣から起こってきます。規則正しい生活習慣を送ることが歯のために大事です。

■ 3歳児健診時一人あたり平均むし歯本数の推移



## 歯周病と虫歯予防のポイント

1. よく噛んで食べる
2. 栄養のバランスのとれた食事
3. 間食は時間を決めて
4. 禁煙しよう
5. 規則正しい生活を心がける
6. 正しい歯みがきをマスター
7. カかりつけ歯科医を見つけよう
8. 定期検診を受けよう



## 第14回 高齢者のよい歯のコンクール 参加者募集

歯の健康につとめてこられた80歳以上の方を対象に「よい歯のコンクール」を行います。

80歳以上で自分の歯が20本以上ある方はふるってご応募ください。また、このような方をご存知の方の推薦もお待ちしています。

### 対象者

今年3月31日現在で80歳以上の人（大正15年3月31日以前に生まれた人）で、自分の歯を20本以上保持している方

応募期間 5月26日（金）まで

### 申し込み先

日田玖珠県民保健福祉センター玖珠保健支所  
地域保健課 ☎ 72-1150

## 歯の健康まつり

歯科保健の普及向上を図るとともに、むし歯予防に大切な歯科衛生の認識及び関心を高めることを目的としています。

日時 2006年6月4日（日曜日）午前10時より午後2時

場所 トキハインダストリー

玖珠センター3階大ホール（玖珠町塚脇）

- 内容
- ① 歯の衛生図面ポスター展示及び表彰式
  - ② 母と子のよい歯のコンクール審査及び表彰式
  - ③ 高齢者のよい歯のコンクール審査及び表彰式
  - ④ 口腔ケア用品配布
  - ⑤ 歯科健康相談
  - ⑥ 歯みがき指導、フッ素塗布
  - ⑦ その他

連絡先 玖珠郡歯科医師会

担当：相良歯科医院 ☎ 72-0214

# 図書館だより

ほんの森  
5月号

図書館開館時間  
平日 10:00~18:00  
土・日 9:00~17:00  
月・祝 休み

## ★「魔法の国へのパスポート」★

今年3月29日付朝日新聞で素敵な記事に出会いました。

I B B Y朝日国際児童図書賞(朝日新聞社主催)を、モンゴルの「子どもたちの移動図書館」のプロジェクトに贈るといふ記事でした。このプロジェクトは、都市から離れた場所を移動する遊牧民の子どもたちにも本を読む機会を与えようと、モンゴル人の作家と学生らがボランティアで始めたもので、なんと、バスの他、ラクダの背に絵本を積んで子どもたちに届けているのだそうです。ラクダの背に絵本! 絵本を背にのせてゆっくり歩いているラクダの姿が一気に頭の中をよぎりました。そして、大草原の中、馬と共にいる子どもたちが本を持っている姿も。実際は、遠い距離の移動、過酷な気象条件など、多くの苦労があることでしょう。

4月23日~5月12日の2週間は、「子ども読書週間」でした。そして、今年の標語は魔法の国へのパスポート。この標語が、上述のモンゴルの情景と実にぴったりくるなあ、と感じ入ったわけです。

4月2日の「子どもの本の日」も、4月23日の「世界本の日」も、「すべての子どもに本を」の理念を掲げて制定されています。

モンゴルの遊牧民の子どもも、今、戦火の中にいる子どもも、貧困の中にいる子どもも、世界中のすべての子どもが絵本と出会い、魔法の国へのパスポートを手に入れられる日がくることを願わずにはいられません。

-----【お知らせ】-----  
図書館でボランティアグループによる「絵本のよみかかせ」を行います。  
5月20日(土) 1回目 10:30~11:00  
2回目 14:30~15:00  
於 図書館内  
6月以降、毎月第3土曜の14:30~15:00  
みなさんいらしてください。  
-----

## 新刊・新着図書

### 《一般書》

ももこの21世紀日記 No.5  
団塊諸君山もいぞ  
弥勒の月  
さいろいソウ  
りはめより100倍恐ろしい  
プロ論。2  
古田のブログ  
イタリア幻想曲  
チーム・バチスタの栄光  
お嬢召しませ  
戦場の犬たち  
ちょこっと干してうまみがぎゅっ!  
40歳ふたたび  
イギリス手づくりの生活誌  
銀鈴の果て  
おやすみ、こわい夢をみないよう  
事典和菓子の世界  
私のパリ私のフランス  
メイク・ア・ウィッシュの大野さん  
フランスのマンの焼き菓子レシピ  
鯨尺の法則  
いのちとユーモア  
田んぼの生き物  
おむすびころりん

さくらももこ  
大野剛義  
あさのあつこ  
西加奈子  
木堂桂  
B-ing編集部  
古田敦也  
内田康夫  
海堂尊  
浅田次郎  
河村喜代子  
奥園壽子  
石田衣良  
ジョン・セイモア  
筒井康隆  
角田光代  
中山圭子  
岸恵子  
大野寿子  
マリコ・デュブレシ  
長町美和子  
鎌田實  
飯田市美術博物館  
嶺極

他人を見下す若者たち  
あたしんち 1~11  
流れ星が消えないうちに  
頼むから静かにしてくれ 1  
百の知恵双書 1~10

速水敏彦  
けらえいこ  
橋本紡  
レイモンド・カーヴァー  
OM出版

### 《児童書》

悪魔のささやき  
ポールと小鳥  
鐘の国のアリスの算数パズル  
じぶんでじぶんをまもろう1~3  
くまのがっこう  
あなたをずっとずっとあいしてる  
バムとケロのおかいもの  
ドラえもんのお宝ワールド大探検  
ドラえもんのお宝ニッポン大探検  
かこさとしの自然のしくみ地球のちから 1~5

星新一  
新倉勇  
山崎善美  
すみもとななみ  
あだちなみ  
宮西達也  
島田ゆか  
北村雄一  
北村雄一  
加古里子

### 《洋書》

Kafka on the Shore  
Angels & Demons  
Memories of a Geisha  
Murder on the Orient Express  
The Secret Life of Bees  
Tuesdays with Morrie

Hanaki Murakami  
Dan Brown  
Arthur Golden  
Agatha Christie  
Sue Monk Kidd  
Mitch Abom

## 5月のハート降る♡このえ

「伝えたい「ちょっといい話」  
「心あたたまる話」をぜひお  
寄せください。町内各所に投  
稿用のボックスを設置してい  
ますので、そこに投稿するか、  
「ハート降るこのえ」メンバ  
ーへご連絡ください。  
連絡先 佐藤明郎  
(476-25226)  
郵便の場(5月10日)まで  
〒879-1489  
九重町役場企画調整課広報  
グループ

新学期の朝 ♡♡♡ 心の形見  
新学期になると、どの地域でも  
良く見られる光景だと思います。  
入学式の日のご様子。わが子も  
今年から上級生。近くの1年生を  
迎えるに行かなければと、ドキドキ  
していました。  
「何時に迎えにいけばいいかな  
え」と何度も外を見ていました。  
すると、近くに住む6年生になっ  
た子どもたちが、何人かでやって  
きては新1年生の家を訪ねていま  
した。いつもより早い時間です。  
さすが6年生になると違うなど感  
心してしまいました。うちの子は  
がっかり。でも、少しだけ、ほっ  
としていたようです。これなら1  
年生も安心ですね。  
私の職場近くにも、新幼稚園児  
をお姉ちゃんらしい子が送って  
いく様子が見られます。横断歩道で  
何度も左右確認をしながら、学校  
へ向かう姿はほほえましいもので  
す。新学期で新しい気持ちでがん  
ばろうとする子どもたちに、みん  
なで心から応援してあげたいと思  
いました。

## 「女性の人権ホットライン」 「子どもの人権110番」 電話番号が全国共通化されました。

「女性の人権ホットライン」0570-070-810  
「子どもの人権110番」0570-070-110

大分地方法務局では平日の8時30分から17時まで相談に応じています。お気軽に相談してください。秘密厳守。

**相談内容** 夫やパートナーからの暴力、職場でのセクシャルハラスメント、ストーカー、子どものいじめ、不登校、その他人権問題

**問い合わせ** 大分地方法務局人権擁護課内  
☎ 097-532-3161 (内線36)  
[http://www.jinkengo.jp/ota/ota\\_index.html](http://www.jinkengo.jp/ota/ota_index.html)

## 浄化槽の清掃・11条検査の 同時契約についてのお願い

浄化槽が適正に維持管理されているかを調べるため、浄化槽法第11条による検査が年1回義務付けられており、県の指定検査機関である(財)大分県環境管理協会が検査を行っています。

県と町では、浄化槽管理者の方々を対象に、浄化槽の清掃業者が何ったときに合わせて法定検査についてもご案内し、契約いただく同時契約方式を勧めています。

同時契約方式とは、浄化槽を使用されている方が浄化槽清掃業者と結ばれている清掃契約等の中に、新たに定期検査の項目を設け、定期検査を受けていただくというものです。

この趣旨にご理解をいただき、同時契約の締結についてご協力をお願いします。

**問い合わせ** 危機管理・町民安全課 (☎ 76-3801)

## 液化石油ガス「設備士再講習(法定義務)」 を受講していますか

この再講習は、法の定めにより、5年に1回(初回は3年)受講することが義務づけられています。該当する方はお問い合わせください。

**講習期日** 平成18年6月8日(木)・9日(金)  
**問い合わせ先** 大分県液化石油ガス教育事務所  
☎ 097-558-5483  
<http://www.otaipg.or.jp/>

## 「私たちの地球、私たちの未来、 救うのは今！」

6月5日は、世界環境デーです。

くじゅうタデ原湿原が国際的に重要な湿地として、ラムサール条約湿地に登録されました(2005年11月8日)。多くの誇れる自然と資源を子孫に残しましょう。

## ガイドヘルパー 養成研修 (聴覚視覚障がい者・全身性障がい者移動介護)

**と き** 6月17日(土)～19日(月)

**と ころ** ヘルパーステーション虹の家 講座会場 ほか  
**募集人数** 20人

**対象者** ホームヘルパー養成研修1・2級課程修了者  
または修了予定者及び介護福祉士で、全日程を受講できる方

**受講料** 25,000円  
(テキスト代・実習費含む。消費税含む)

**申込締切** 6月10日(土) 先着順

**申し込み・問い合わせ先**

ヘルパーステーション虹の家  
☎ 0973-25-5011 FAX 0973-25-5012  
申し込み方法→所定の申込書に記入の上、郵送・FAX・持参のいずれかで提出してください。  
(申込書は、役場ふれあい生活課においてあります)

## 行政相談・心配ごと相談所を開設します

日頃のお困りごとをお聞きします。相談は無料で、秘密は厳守されますので、安心してご相談ください。

6月13日(火) 飯田公民館

6月27日(火) 南山田公民館

時間はいずれも 9:00～12:00

**問い合わせ** 役場総務課 (☎ 76-3800)

## 産業振興条例をご存知ですか

大分県では、県内の過疎地域活性化特別措置法の指定区域内において、設備を新設または増設した場合に、一定の要件を満たせば県税等(事業税、不動産取得税等)の免除を受けられることがあります。

**対象業種** 製造業、旅館業、ソフトウェア業

**主な要件** 設備を新設または増設(取得価格2,700万円以上)。青色申告書を提出する法人または個人。

**申請期間** 法人は決算日から60日以内。

個人は翌年の3月15日まで。

**問い合わせ** 商工観光課 (☎ 76-3150)



(平成18年4月末現在)

平成18年町内地区別事故発生状況(累計、集地)

地区別	人身事故		物件事故	件数計
	死者	負傷		
東飯田	0	1	3	9
野上	0	12	4	24
飯田	0	7	3	47
南山田	0	5	4	23
計	0	25	12	98

## 町営住宅及び県営住宅入居者募集

- 募集住宅① 町営松岡台住宅2戸  
(3LDK・九重町大字右田3150)
- 募集住宅② 県営松岡台住宅2戸  
(2DK・九重町大字右田3150)
- 募集住宅③ 町営恵良住宅1戸  
(高齢者向け2DK・九重町大字松木5353-1)
- 募集住宅④ 町営恵良住宅1戸  
(3LDK・九重町大字松木5353-1)

申込期限 2006年6月9日(金)

問い合わせ・申込先

建設課管理水道グループ ☎76-3811

## 大分県調理師試験

試験期日 平成18年8月8日(火) 9:30~11:45  
試験会場 別府大学(別府市北石垣82)  
受験資格 飲食店や給食施設などにおいて2年以上調理業務に従事した人

願書等の受付期間

期間:平成18年6月19日(月)~23日(金)  
受付時間は各日とも8:30~17:15

受験手数料 6,200円

受験願書配布・提出先 日田玖珠県民保健福祉センター・玖珠保健支所 ☎72-1150

## 守って!電波のルール

~6月1日から10日までは電波利用保護旬間です~  
一人ひとりがルール(電波法)を守って、クリーンな電波環境をつくりましょう。

電波に関する困りごと、ご相談は次のところまで

九州総合通信局 <http://www.kbt.go.jp/>

- 不法無線局、混信・妨害 ☎096-368-8656
- テレビ・ラジオの受信障害 ☎096-326-7873
- 電波利用料 ☎096-326-7805
- その他相談 ☎096-326-7819

## HIV抗体検査(迅速検査)夜間実施

対象者

無料匿名検査になります。居住地等は問いません。

実施期間 平成18年6月1日(木)~6月7日(水)

\*土日は除く 17:00~20:00

希望される方は、次の連絡先に事前に電話で予約してください。予約受付時間 9:00~17:00

申し込み及び問い合わせ先

日田玖珠県民保健福祉センター地域保健課  
(日田市田島2-2-5) ☎0973-23-3133

## 今月の年金相談

日時 5月24日(水)10:00~15:00  
場所 九重町役場1階・102会議室

## 2006 大分県職員募集

試験種類	受付期間	第1次試験日
上級試験 医療免許資格職試験Ⅰ	5月11日(木) ~5月30日(火)	6月25日(日)
初級試験 中級試験 医療免許資格職試験Ⅱ	8月4日(金) ~23日(水)	9月24日(日)
警察官B 警察官B(女性)	8月4日(金) ~23日(水)	10月15日(日)

\*インターネット受付もしますが、上記期間よりも短期間となっていますので、ご注意ください。

問い合わせ 大分県人事委員会事務局

〒870-8501 大分市大手町3-1-1

☎097-536-1111 内線5200・5212

\*警察官採用については、大分県警本部警務課

(☎0120-204-110)でも受け付けています。

\*受験案内・申込書は大分県西部振興局玖珠事務所(玖珠町)にあります(警察官の分は警察署にもあります)。  
ホームページ <http://www.pref.oita.jp/2200/>

## 里親になりませんか

~子どもたちは家庭のぬくもりを求めています~

里親とは、親の病気や離婚などさまざまな事情によって、家庭で生活できなくなった子どもを自分の家庭に迎え入れ、愛情とまごころをこめて養育してくださる方のことです。

養育をお願いする期間は数日間から数年までさまざまです。通常の養育里親のほか、児童養護施設等に入所している児童をお盆やお正月に短期間預かるトライアル里親も募集します。

以下の日時で里親制度の説明会を開催します。関心のある方は誰でも参加できますので、お気軽にお越しください。

多数のご参加をお待ちしています。

日時 2006年5月23日(火)14:00~16:00

場所 九重町役場101会議室

問い合わせ先

大分県児童相談所 ☎097-544-2016  
ふれあい生活課福祉グループ ☎76-3802

## ご存知ですかe-Tax

「国税電子申告・納税システム(e-Tax)」を利用することにより、国税に関する各種手続きが自宅や事務所にいながらインターネット等で行うことができます。詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.e-tax.nta.go.jp>

問い合わせ 日田税務署 ☎0973-23-2136

## 今月の納税

【国民健康保険税】(仮算定)  
【軽自動車税】(全期)  
【固定資産税】(第1期)

納期限 5月31日

# 幸せになるひびね

## 人権 心の扉

No.124

私は、福岡県から九重町に移り住み9年になります。九重町に来てから、人権を学ぶ場を、たくさんいただきました。その中でいろいろな差別があることを学びました。(女性差別・職業差別・高齢者差別・障がい者差別・人種差別・部落差別)

私は、「部落差別」という言葉は知っていても、知識もなく、もう差別は「ない」と思っていましたので、未だ差別が続いていることにびっくりしました。部落差別は、江戸時代に、幕府が領民を支配するために身分制度を強化し、幕藩体制を維持する手段として、政治的に作られたものです。

この身分制度に起因した被差別地区に生まれた人たちに今もなお

る。

\* 言葉や文字でさげすまれる。

\* 交際を拒否される。

\* 就職で不公平に扱われる。

\* 結婚に反対される。

など、日常生活でもいろいろな差別を受けることがあります。今も差別は、続いているのです。差別は絶対

にあつてはいけないとわかっていきます。一人ひとりが

差別のない、差別を許さない

社会をつくるために私たちが、できる

ことは何でしょうか？

他人事ではなく、人の心の中は、見え

ないけれど、心と心は感じる事ができる

はず。心と心をつないで、心から心へ

人権の想い、伝えてゆきたいと思えます。

隣保館人権啓発指導員 安藤千恵美

### 想いを伝える

特に心に残っているのは、部落差別です。人権学習会で、被差別地区のお母さんが部落差別についての現状を発表されました。私は、「部落差別」について、言葉は聞いていましたが、「部落差別」は今も「ない」と思っていました。また、「私は、差別なんかしていない、したことがない」とも。

その人権学習会の中で、「みなさんは他人事ですよ、今も差別は続いているんです」と想いを伝えていた被差別地区のお母さんの言葉に胸が熱くなりました。

### ＝2006年5月・6月休日当番＝

月	日	医療機関名	住所	電話
5月	21日	武田医院	森	72-0170
		矢原医院	野上	77-6121
	28日	北山田クリニック	北山田	73-2030
6月		長内科小児科腎臓科医院	春日町	72-2143
	4日	玖珠記念病院	塚脇	72-1127
	11日	麻生消化器科内科医院	山田	72-7100
		友成(町田)医院	町田	78-8811
	18日	井上医院	恵良	76-2711
		三池循環器科内科医院	塚脇	72-6101
	25日	友成(産婦人科)医院	塚脇	72-0330
		飯田高原診療所	飯田	79-2167

月	日	医療機関名	住所	電話
5月	21日	麻生歯科医院	右田	76-2310
	28日	はたの歯科医院	日田市	0973-22-7736
6月	4日	伊藤歯科医院	日田市	0973-24-5700
	11日	(玖珠)井上歯科医院	右田	77-6851
	18日	アベックス歯科	日田市	0973-22-0075
	25日	樋口歯科クリニック	日田市	0973-22-8881

月	日	獣医師名	電話
5月	27日	佐藤 獣医	77-6448
6月	4日・17日・25日		
5月	21日・28日	山本 獣医	78-9101
6月	11日・18日		
5月	20日	甲斐 獣医	76-3324
6月	3日・10日・24日		

★都合で変更する場合があります。

玖珠消防署：● 救急は119番 ☎72-2141

● 火災の確認は ☎72-5100

備考 大分県中西部農業共済組合 ☎3409  
休日当番の電話番号(携帯)は 090-5721-8191

# 雑草日記

## 季節題

6月号

「老鷹(ろうおう)」

「田植(植田)」「明け易し」  
(5月25日締切)

7月号

「南風(はえ)」

「髪洗(うい)」  
(6月26日締切)

今月の季節

「藤」「母の日」  
「薫風(風薫る)」

対岸の藤を眺めてケアの風呂  
ありがとう嫁の母の日プレゼント  
薫風に妻の手を引き墓参り  
のり出して流れに揺るる藤の花  
山藤の風香り来る散歩路  
お隣の藤房見事見ごろなる  
藤の花堂映ゆる曇り空  
母の日や安否の電話プレゼント  
母の日や亡母の人徳偉大なる  
母の日や孫にきそわれショッピンダ  
母の日が来るたび詫びる親不孝  
涅槃像ささぐり参り風薫る  
薫風や地元女将の山茶膳  
薫風や一姫二太郎孫そろう  
節くれの藤葉鏢と香ぐわしき

「対岸の藤を眺めてケアの風呂心身共に最高のケア。」「ありがとう嫁の母の日プレゼント」初句のありがとうに感情がこもる。  
「薫風に妻の手を引き墓参り」愛妻と親孝行に風薫る。五月は藤花から母の日、薫風、それに郭公と快適な季節。だが農家は忙しい。  
選者 麻生 良昭

このコーナーは町民となたでも応募できます。ハガキに作品名と住所、氏名、電話番号をお書きのうえ企画調整課(広報グループ)までご応募を、なお、応募作品は返却しません。

- 小野十三日  
穴井久美子  
佐藤 修正  
清竹 勇蔵  
小野ミツノ  
玉井多喜子  
佐藤 元八  
湯浅加代子  
松本まち子  
若尾 奈加  
森高マサヨ  
赤峰 幸子  
原田 勝子  
藤澤 節子  
選者 吟

添削がありますのでご了承ください。 広報

## このえ 時間旅行

ふるさと再発見 140

### 地名を歩く 栗野(1)

九重町文化財調査員 甲斐素純

秋になると各地の辻々に立てられる「清道旗」などに、「五穀豊穡・村中安全」などの文字が染め抜かれた旗が、風にはためいているのを見かける。太鼓や笛の音と共に、五穀豊穡を感謝する秋の祭典が、毎年繰りひろげられる。子どもの頃は、学校の終わるのを待ちわび、すっ飛んで桶り、カバンを放り投げて少しの小遣いを固く握り締め、鎮守の森へと急いだものである。神楽の賑わい、するめ焼く匂い、どれをとっても懐かしい思い出である。

この「五穀」とは「米・麦・粟・キビ・豆」のことで、水が確保できなく米がとれない所は、麦・粟以下を作り、畑地を有効利用した。「栗野」は万年山(標高一四〇メートル)の東側山麓に沿って開けた所で、前方に「玖珠川」があり、度々洪水により河道が変わり、当時の人々はその復旧に四苦八苦した。万年山から注ぐ細流の小谷ごとに、溪流の自然水や湧水を取り込んだ水田が開け、そこを中心として集落が古くより形成されている。

栗野の地名が出てくる一番古い文献は『豊後国弘安田代注進状』で、「粟名八町新庄、栗野・山田廿九下法津町一町」とある。鎌倉時代の弘安年間(一二七八〜八八)に、国の面積・所領支配を国ごとに幕府に注進(提出)した書類に、このように出ている。

なお、地頭職(幕府が各地に置いたもので、土地の管理・租税の徴収などを行う)は、筑前(福岡県)の原田氏であるが、この時期のみで代々の支配ではない。

さて、著者が以前発表した出版物に『大分県の地名』(早

凡社)があり、玖珠郡全般を担当執筆しているが、その中に近世(江戸時代)の「栗野村」についても記してある。次にその文章を、これから若干補足しながら引用していく。

近世当村の組頭を勤めた古後家は、豊後清原氏の流れをくみ、玖珠川支流大田川流域の古後村(現玖珠町)が本貫地であった。永正一四(一五一七)年、朽網親満の乱の勲功の賞として、大友親安(義經)から牧口の地四分の一を預け置く旨の感状を得ているが、同書状は字ユウジャク(用字)にある古後家の先祖の墓碑に刻まれている。大友家のお家断絶により、慶長六(一六〇一)年当地に移住した。

(以下次号)



弔慰

お悔やみ申し上げます

おなまえ	年齢	行政区
廣田ミズノ	99	菅原本村
工藤ミヨ子	79	野矢
小幡マスノ	77	下旦七
佐藤ミツエ	86	下右田(東)
伊東マツエ	95	中央一

今月号の表紙は  
野矢小学校児童全員集合、  
新1年生・麻生日向さん  
を囲んで、22ページ参照。



ここのえ  
爆笑落語会

三遊亭円丈 (新作落語の旗頭)  
三笑亭夢之助 (グルメな古典正統派)  
林家染二 (上方落語の新鋭)

2006年5月24日(水) よる 7:00(6:30開場)  
九重文化センター 前売券 2,000円(当日券3,000円)

イベント

米村でんじろうのおもしろサイエンスショー  
～空気と風船の不思議大実験

2006年6月20日(火) よる 7:30(7:00開場)  
九重文化センター  
前売券 大人2,000円、高校生以下1,000円 \*当日券は500円増し

米村でんじろう:  
サイエンスプロデューサーとして、科学実験の企画・開発、各地でのサイエンス  
ショー・実験教室・実験キャンプ・研修会などの企画・監修・出演。さらには各  
テレビ番組・雑誌の企画・監修・出演など、さまざまな分野で活躍中です。

問い合わせ 九重文化センター (☎76-3888)



人の動き

4月1日～4月30日届出分  
(敬称略)

人口と世帯

人口 11,534 人 (+ 5)  
男 5,482 人 (- 1)  
女 6,052 人 (+ 6)  
世帯 3,925 (+ 6)  
( ) は前月との増減

おめでとうございます

出生

おなまえ	性別	保護者	行政区
佐藤 悠久	男	和博	川西一
甲斐 彩子	女	雅彦	粟野本村
寺村 李鶴	女	隆二	中央一
小野 優菜	女	拓磨	川西三
松原 幸春	女	英治	川上二
小田 望結	女	朋幸	菅原本村

くじゅう山開き

- ① 前夜祭～6月3日(土)  
長者原
- ② 山頂祭～6月4日(日)  
大船山頂  
・10時～山頂付  
近で記念ペナ  
ントの配付  
(数に限りあり)



観光インフォメーション

宝泉寺温泉ほたる祭

- 5月27日～7月1日  
(毎週土曜日)  
宝泉寺温泉郷
- ・ホテル観光バスを運行して飯  
宮スポーツへ案内。
- ・郷土芸能大会、芸能ショー、  
ホテル観光などの催しあり。

\*各日のイベント内容については  
お問い合わせください。

問い合わせ 九重町観光協会  
(役場商工観光課内)  
☎76-3150 FAX 76-2247

6月の  
お知らせ

町長と語る  
ふれあいタイム

6月10日(第2土曜日)  
午前10時～午後4時(日中開催)  
6月24日(第4土曜日)  
午後6時～午後9時(夜間開催)

場所は町長室です。お気軽においでください。

もんじ

特集 土からはじまる 2～17



- まちづくり出版講座 18・19
- ニューススクラップブック 20・21
- 入学式/女性酒席は真澄生 22
- 鴨子川大規模工事現場報告 23
- 次世代育成支援行動計画実施報告 24・25
- 保健(歯の衛生) 26
- 図書館だより/ハート読者のここのえ 27
- ぐらしの情報 28・29
- 人権/休日当番/歳時記/時間旅行 30・31

編集後記

「がんばれば、がんばった分だけ、必ず返ってくる」。農業の喜びについて、多くの方がそう答えてくれました。特集「土にはじまる」取り上げた12組のうち11組は4月中旬から取材開始。短期間の編集作業は、非常に大変でしたが、とても手ごたえを感じるものでした。が「がんばった分だけ」は、広報作りも一緒です。誰もがとてもしない言葉を持つていました。取材の報りでは「この人の話を聞いて良かった」と思うことばかり。あとは、これをどう伝えるか、文字が大変多くなっていますが、ぜひ読んでください。今回は、生産者を中心に取り上げましたが、農産物の行方やそこから生まれる交流も気になるところ。いずれ取り上げたいと考えています。風景と景観は違う。津和野のまちづくりの先頭を走り続ける中谷健太郎さんの近著「由布院に吹く風」(岩波書店)にそんなことが書かれていました。曰く、景観は単に「見える景色」であればよいが、風景は「風の景色」である。空気が動くさまを風と言う。「動き」「風の本性」「風」から吹いてきた風が「ココ」の土や水の温度を整え、草木を育み立たせ、新しい精気を生んで、また「ヨソ」に吹いてゆく。風が土地の様々な生命をしっかりと結んで、嬉々しく見せるから「風の景色」は「生命の景色」なのだ。生命もまた「動き」が本性であり、風の景色と生命の景色はびったり重なる。風景に責任を持つ町でありたいと思ってきた。生命に責任を持つ町でありたいからだ。●今月は6月10日。だから特集を組んだというわけではありませんが、結果的に記念号みたいになりました。少し安心していきます。先日、住民の方から贈りましのお手紙をいただきました。そこには「健康は、力を示す。600号」と書かれていました。継続の力とは、志は高く持ちつも、しっかりと「地べた」に足をつけた活動であると考えています。これからは、九重の土に生き、風を吹き込ませる広報でありたいと考えています。 Koht-T

町の面積 271.41km<sup>2</sup> / 町の木 くぬぎ 花 ミヤマキリシマ 鳥 カッコウ